

教	職	課
履	修	程
ブ	ハ	ン
ツ	ク	ド



岡山大学教師教育開発センター

Center for Teacher Education and Development, OKAYAMA UNIVERSITY

Third Edition
平成28年度以降入学生用

『教職課程履修ハンドブック』（第三版）の刊行に寄せて

岡山大学教師教育開発センター長
岡山大学大学院教育学研究科長・教育学部長
高塚成信

いま、この冊子を手にしている新入生の皆さんは、大きな夢と希望を抱えて入学してこられたと思います。そして教師になることを、将来の夢のひとつに考えておられることと思います。

教職は、子どもたちのより良い成長や発達を支え、その幸せに立ち会うことのできる素晴らしい職業です。あなた自身、これまでの学校生活のなかで、素敵な先生との出会いがあったのではないのでしょうか？ 悩みや苦しみを抱えていたとき、親身になって進むべき方向を指し示してくださった先生。生徒たちと一緒にあって、夢中になって部活動や生徒会活動に取り組んでくださった先生。苦手な嫌いな教科だったはずなのに、丁寧で分かりやすい授業だったおかげで、いつしかその教科が好きになり、その奥深さや面白さに気付かせてくださった先生…。

この『教職課程履修ハンドブック』は、他の誰でもないあなた自身が、誰かにとってそのような教師になることを願い、刊行するものです。平成22年4月に教師教育開発センターが発足して以来、第一版（平成23年6月）、第二版（平成25年10月）と版を重ね、今回で第三版を刊行することとなりました。

岡山大学では、教育学部の他に、文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部に所属する学生の皆さんが教員免許状を取得し、教職に進むことができます。学部・大学院を合わせ、例年200名近い卒業生・修了生が教員免許状を取得し、本学を巣立っています。そのなかには、優れた資質を有する新人教師として、岡山県内や中国・四国地方はもとより、全国の教育界に羽ばたいて行った先輩方がたくさんいらっしゃいます。

教師教育開発センターは、教職を目指す皆さんを全面的にバックアップする全学組織です。学部の垣根を越えた教職課程の在り方を研究し、実践する組織としては全国初のものです。その取組には、本学大学院教育学研究科・教育学部の最先端の研究成果を取り入れています。「母校訪問」に始まる全学教職コア・カリキュラムはもとより、学校現場でのボランティア活動に学生をつなぐ「スクールボランティアビューロー」、現場で頑張っておられる先生の生の声を届けたり、教員採用試験に向けた特別講座を主催したりする教職相談室、先進的な理数系教員養成プログラムの展開など、今の時代と社会に必要な教員養成教育の在り方を研究し実践しています。

皆さんにとって必要なことは、なによりもまず、自らが所属する学部での学習にしっかりと取り組むことです。その基盤のうえにこそ、優れた教師として必要な実践的指導力が培われていきます。そのような中学校・高等学校の教師を輩出することが、本学に課せられた重要な使命のひとつです。ひとりでも多くの皆さんが、優れた教師としてこれからの社会を担ってくださることを願います。

平成28年4月

【目次】

第Ⅰ部 岡山大学全学教職課程の理念と構造	1
1. 岡山大学の教職課程の理念と教師教育開発センターの役割	2
(1) 「大学における教員養成」と「開放制」	
(2) 岡山大学の教職課程の理念	
(3) 教師教育開発センターの役割	
2. 本学教職課程の構造	4
(1) 全学教職コア・カリキュラム	
(2) 教職に関する科目	
(3) 教科に関する科目	
(4) 全学教職課程カリキュラムマップ	
3. 本学教職課程が育てる教師力 ―教育実践力を構成する4つの力	8
(1) 学習指導力	
(2) 生徒指導力	
(3) コーディネート力	
(4) マネジメント力	
第Ⅱ部 全学教職コア・カリキュラムの概要	13
1. 母校訪問	14
(1) 母校訪問の意義	
(2) 母校訪問の期間と内容	
(3) 母校訪問のための事前準備	
(4) 訪問時の注意	
(5) 母校訪問を終えた後に行うこと	
(6) 母校訪問 Q&A	
【参考】 母校訪問計画書・報告書様式	21
2. 教職論	23
(1) 授業科目「教職論C(1)(2)」の目的	
(2) 教職論C(1)(2)の授業計画	
(3) 使用教科書, 教材について	
(4) 授業の進め方と課題	
3. 介護等体験	25
(1) 実施スケジュール及び手続の流れ	
(2) 介護等体験に係る留意事項	

4. 教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）	28
(1) 授業科目「教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）」の目的	
(2) 教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）の授業計画	
5. 教育実習Ⅳ（中学校）・教育実習Ⅴ（高等学校）	30
(1) はじめに　－教育実習とは何か	
(2) 教育実習の目的と心得	
(3) 実習生に対する学校側の期待	
(4) 教育実習校における事前打ち合わせと事前指導	
(5) 教育実習の実施スケジュール及び手続の流れ	
6. 教育実践演習（中・高）	34
(1) 「教職実践演習」とは？	
(2) 「教職実践演習」の設定の理由	
(3) 教職実践演習の趣旨とねらい	
(4) 岡山大学の全学教職実践演習	
第Ⅲ部 教職課程履修ガイド	39
1. 教員免許状取得までのスケジュール（必要な単位の履修を除く）	40
2. 教員免許状とは	41
(1) 教員免許状制度の概要	
(2) 教員免許状の種類	
(3) 岡山大学で取得できる教員免許状	
3. 教員免許状取得要件	44
(1) 全般的事項	
(2) 科目区分別チェックリスト	
4. 教職科目単位修得方法	50
(1) 全学部共通の履修方法	
(2) 学部別の履修方法	
5. 教職免許状の申請方法	54
6. 学部別問い合わせ窓口	55
7. 学部卒業後の教職課程履修ガイド	56
(1) 専修免許状の取得	
(2) 一種免許状の取得	
(3) 教職大学院（大学院教育学研究科教職実践専攻）への進学	
8. 教職課程の授業科目を登録する際に確認すべき事項	58
(1) 教職課程の授業科目を履修登録する前に確認すべき事項	
(2) 教職課程授業科目履修計画表	

第Ⅳ部 さらに自分を高めるために	63
1. 「教職相談室」を大いに利用しよう	64
(1) 教職についてもっと知ろう	
(2) 教職相談室を利用しよう	
(3) 「教師力養成講座」で実践力を身につけよう	
(4) 教職相談室のドアをノックしよう	
2. スクールボランティアビューローを活用しよう	67
3. 岡山大学 教師教育開発センター ホームページについて	69
4. 教職に就いた先輩からのメッセージ	70
第Ⅴ部 教職実践ポートフォリオ（中学校・高等学校教諭用）／履修カルテ	73
1. 教職実践ポートフォリオ／履修カルテについて	74
【参考】教職実践ポートフォリオ／履修カルテ様式	75

第 I 部

岡山大学全学教職課程の理念と構造

1. 岡山大学の教職課程の理念と教師教育開発センターの役割

(1) 「大学における教員養成」と「開放制」

医師になるには医学部で学び、国家試験に合格しなければなりません。看護師も、看護教育を専門とする大学・学部や短期大学もしくは専門学校等で学び、国家試験に受かることが必要です。しかし「教師」は違います。教員養成を目的とする「教育学部」を卒業していなくても、教職に就くことは可能です。いったい、なぜなのでしょう？

日本の教員養成制度には2つの原則があります。ひとつは「大学における教員養成」という原則であり、いまひとつは「開放制」という原則です。「大学における教員養成」とは、「教師は大学で養成する」ということです。言い換えると、「高等学校を卒業しただけでは教員になれない」、「専門学校では教員を養成しない」ということです。大学教育、つまり学士としての基礎を教養教育で培い、さらに個々の専門学部で研鑽を積むという、4年間の大学教育の修了者に教職への道を開くということです。

次に「開放制」の原則とは何でしょうか？ これは「教員の養成を教育学部に限定しない」ということです。多様な専門学部から輩出される人材にも教職への道を開き、教科の深い専門性と学問知識を持つ人材を学校現場に送りだそうという考え方です。つまり、学校現場は皆さんのように専門学部で学んでいる人も求めているのです。

皆さんが所属している文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部では、その学問分野にふさわしい教科の教員免許状が取得できるよう、様々な工夫を凝らしてカリキュラムを編成し、文部科学省の認定を受けています。各学部の先生方の総意として、皆さんの主要な進路のひとつとして「教職」を位置づけ、皆さんをバックアップしているのです。

(2) 岡山大学の教職課程の理念

本学の開放制教職課程の社会的使命は、優れた研究的実践力を有する中等教育教員を社会に輩出することです。「中等教育教員」とは中学校もしくは高等学校の先生のことです。また「優れた研究的実践力」とは、単に教え方がうまい／生徒に慕われるというだけではありません。「子どもたちをより良く育むために、何を、どのようにすべきか？」と自ら課題を発見・設定し、仮説を立て、実際に検証し、解決策を実践できる力のことです。

このような社会的使命（ミッション）に対して、本学の教職課程では次のようなディプロマ・ポリシー（DP：Diploma Policy）を掲げています。ディプロマ・ポリシーとは、一般に「卒業認定・学位授与に関する方針」と訳されますが、ここでは「本学の開放制教職課程が養成・輩出しようとしている教師の姿を、社会や学生の皆さんに宣言し、約束した目標」と受けとめてください。

ESD の理念をもち、4つの力で構成される教育実践力を バランスよく身につけた反省的で創造的な教員
--

「ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の理念」とは何でしょうか？ それは私たちが、何のために、どのような教員を養成しようと

しているのか、その方向性を示すものです。私たちは次の世代の担い手に大きな責任を負っています。地球規模の環境破壊や資源保全の問題を先送りせず、持続可能な開発の可能性を切り拓きながら、いまの社会を次の世代に受け渡していかなければなりません。このためには地球規模の視野を持ち、自主的、協同的に課題解決できる市民が必要です。このような市民へと子どもたちを育てていくことが教師の使命であり、大きな喜びでもあるのです。このような理念のもと、本学では「4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員」を育もうとしています。詳しくは8～11頁にゆずりますが、「4つの力」とは端的に次のような力のことです。

- ①学習指導力 : 子どもの学習を指導する力量
- ②生徒指導力 : 子どもの生活を指導する力量
- ③コーディネート力 : 家庭、地域、同僚等、様々な専門家と協働する力量
- ④マネジメント力 : 学校組織や自分自身を統制、改善し、計画する力量

この4つの力をバランス良く段階的に育むために、本学では4年間を3つの期（教職への意欲向上期、学校教育理解期、教育実践力養成期）に区分した教職課程を築いています。

（3）教師教育開発センターの役割

皆さんのように、教育学部以外の学部にも所属して教職を目指すことは、いわば「+α（プラスアルファ）」の負荷を自らに課すことを意味します。所属する学部を卒業するのに必要な単位に加え、「教職課程の科目（教員免許状を取得するのに必要な授業科目）」の単位を修得することになるからです。

教職課程の科目のうち、皆さんの専門学部では、主に「教科性」＝教科の内容についてより深く学ぶ授業科目を開講しています。いっぽう、「教職性」＝教師としての在り方や教科指導の方法、教育実習に必要な実践的力量等を育む授業科目は、主に教育学部や教師教育開発センターに所属する教員が開講しています。

なかでも教師教育開発センターは、「全学教職コア・カリキュラム」を担当しています。「全学教職コア・カリキュラム」は、開放制教職課程の軸になる授業科目やプログラムであり、実践的な内容を多く含んでいます。1年次の「全学教職オリエンテーション」「母校訪問」、2年次の「教職論」、3年次から4年次にかけて履修する「教育実習基礎研究（教育実習の事前事後指導科目）」、4年次前半（1・2学期）の「教育実習」、教職課程の総まとめとなる4年次後半（3・4学期）の「教職実践演習」から成り立っています。

このほか、教師教育開発センターでは、教職課程の履修に係る相談を受け付けたり、教員採用試験受験対策に係るセミナーを開講したり、さらに学校現場でのボランティア体験をコーディネートしたりする業務にも取り組んでいます。このような取組を通して、教職を目指す学生たちが学部の枠をこえてつながる「場」としての役割を果たしたいと考えています。

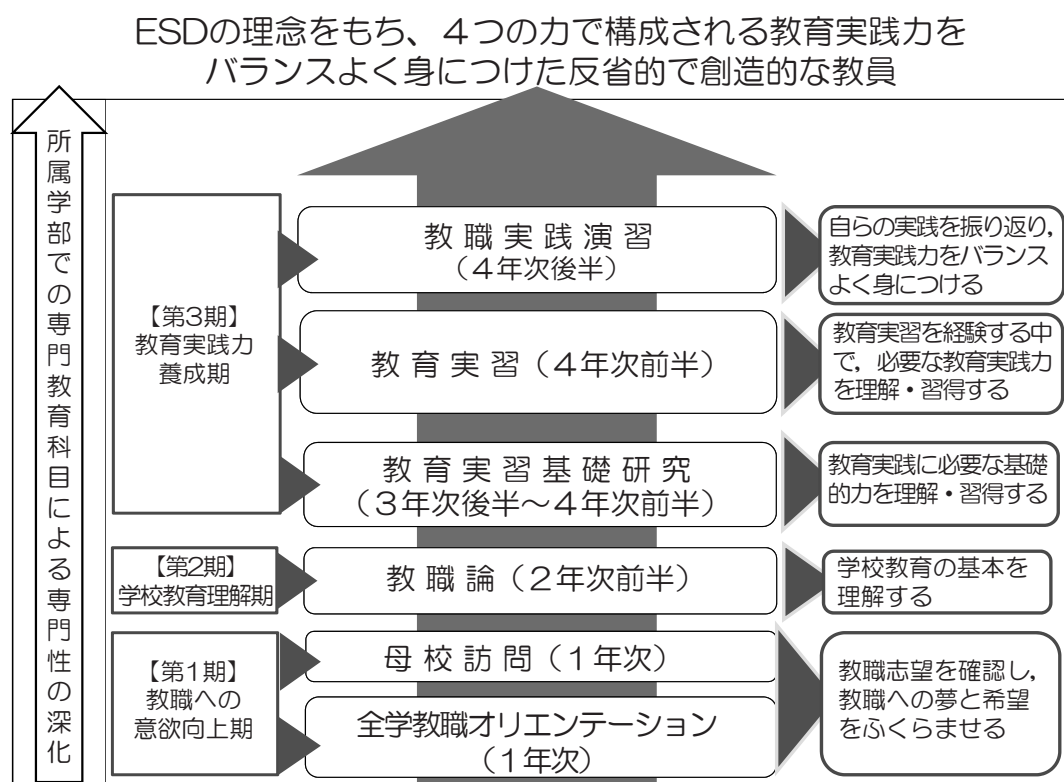
教職は、子どもたちのより良き成長と発達に立ち会える、とても素敵で幸せな職業です。皆さんを、優れた教師として在り続けられる中学校・高等学校の先生に育みたい。これが、私たち教師教育開発センターの願いであり、役割なのです。

2. 本学教職課程の構造

(1) 全学教職コア・カリキュラム

本学では、教育学部による「教員養成コア・カリキュラム」の研究成果を基にして、全学教職課程の構造化を行いました。

下図の中央部分の柱、すなわち「全学教職オリエンテーション（1年次）」から「教職実践演習（4年次後半（3・4学期）」に至る部分が「全学教職コア・カリキュラム」です。これらを全学教職課程の中心に位置づけ、いわゆる「実践的指導力」を育てていきます。そのために、1年次から4年次を3つの期に分け、それぞれ「ねらい」を設定しています。



第1期は、「教職への意欲向上期」です。1年次前半（1・2学期）に「全学教職オリエンテーション」で教職への志望を確認し、その後、母校訪問（又はスクールボランティア）に取り組み、教職への夢と希望をふくらませます。第2期は、2年次から3年次前半（1・2学期）の「学校教育理解期」です。ここでは2年次前半（1・2学期）の必修の教職科目である「教職論」で学校教育や教職の基本を理解します。第3期は、3年次後半（3・4学期）からはじまる「教育実践力養成期」です。ここでは、主に3つのことに取り組みます。第1に、「教育実習基礎研究」で4年次前半（1・2学期）に取り組む教育実習前に必要な基礎的教育実践力を理解し、習得します。第2に、「教育実習」で学習指導や生徒指導など、様々な教育実践に取り組むことを通して自らの力量を育み、教育実習後には再び大学で「教育実習基礎研究」を履修し、自らの実践の意味づけを深めます。第3に、4年次後半（3・4学期）の「教職実践演習」で自らの教育実践をふりかえり、課題を発見し、不足している力を補う努力をすることで教育実践力をバランスよく身につけます。このよ

うに本学では、学年ごとのステップを確実に歩いていくことで、教育実践力をつけていくことができます。

3つの期にはそれぞれコアになるプログラムや授業科目が配置されていますが、教育実践力をバランスよく高めていくためには、これらの科目はもちろんのこと、全学教職課程の全ての科目で十分に学ぶことが必要です。

全学教職課程の科目は、①文部科学省令で定める科目、②教職に関する科目、③教科に関する科目、④教科又は教職に関する科目、の4つから成り立っています。本学では、①は主に教養教育科目として開講しています。また、②は教育学部が皆さんのために開講しています（詳細は50頁参照）。先述した「教職論」、「教育実習基礎研究」などのコアになる科目はもとより、各教科の指導法に関する科目もここに該当します。さらに、③は皆さんの所属学部が専門教育科目として開講しています。以下では特に、「②教職に関する科目」と「③教科に関する科目」について確認しておきましょう。

（2）教職に関する科目

「教職に関する科目」は教育学部が開講しています。教員免許状を取得しようとする皆さんにとっての「教職に関する専門科目」と言えるでしょう。この科目を履修するからこそ、教育学部以外の学部にも所属しながら教員免許状が取得できるのであり、この科目でしっかり学ぶことで、教育実践力をバランスよく高めていくことができるのです。

「教職に関する科目」は、「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」「教育課程及び指導法に関する科目」「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」「教育実習」「教職実践演習」から成ります（具体的な該当科目は50頁参照）。これをさらに大別すると、「教育学を基礎にしている科目」「心理学を基礎にしている科目」、「教科教育法の科目」、そして「教育実習に関する科目」に分けることができます。教員免許状の取得のためには、これらの枠組からバランスよく単位を修得する必要があり、中学校の教員免許状を取得するためには31単位、高等学校の教員免許状を取得するためには25単位を修得しなければなりません。また、皆さんが4年次前半（1・2学期）の「教育実習」を履修するためには、3年次終了までに、この「教職に関する科目」の中から16単位以上修得しておくことが必要ですから、計画的に履修しておきましょう（いずれも本学独自の基準です）。

（3）教科に関する科目

「教科に関する科目」の多くは、皆さんの所属学部の専門教育科目として開講しています。例えば、文学部の皆さんで中学校社会科の教員免許状の取得を希望している人の場合は、「日本史概説1」が「教科に関する科目」のひとつに該当しますし、理学部の皆さんで中学校・高等学校の数学の教員免許状の取得を希望している人の場合は、「確率・統計a」や「確率・統計b」が該当します。これらはほんの一例です。詳しくは、所属学部が発行している学生便覧やシラバスを参照するなどして、各自で事前にしっかりと確認してください。

なお、皆さんの強みは、各教科を成り立たせている学問について、各々の所属学部でしっかりと学び、研究的な実践力を磨いていることにあります。専門の学部で学んでいるか

らこそ、研究的な視点で教科書や資料の内容を分析し、教育効果の高い教材を自ら作成したりするなど、教科の面白さや豊かさを生徒に伝えられる教員としての礎を築くことができるのです。

(4) 全学教職課程カリキュラムマップ

全学教職課程では、教職に関する科目として様々な科目を開講しています。各科目が4つの力（「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」）のどこに重点を置いているか、またその開講時期や履修の順序を図示したものが次頁の「全学教職課程カリキュラムマップ」です。このマップをもとに、4年間を通してどのように教職課程を履修していくか、具体的な見通しを持つとともに、個々の授業科目がどのような力を身につけることを意図しているのかを充分理解し、学びを深めてください。

■■■ 教員免許状には有効期限があります ■■■

教員免許状には有効期限があり、法律が義務付ける教員免許状更新講習を受講しなければ、失効することになっています。この教員免許更新制とは、その折々の時代と社会のなかで教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。

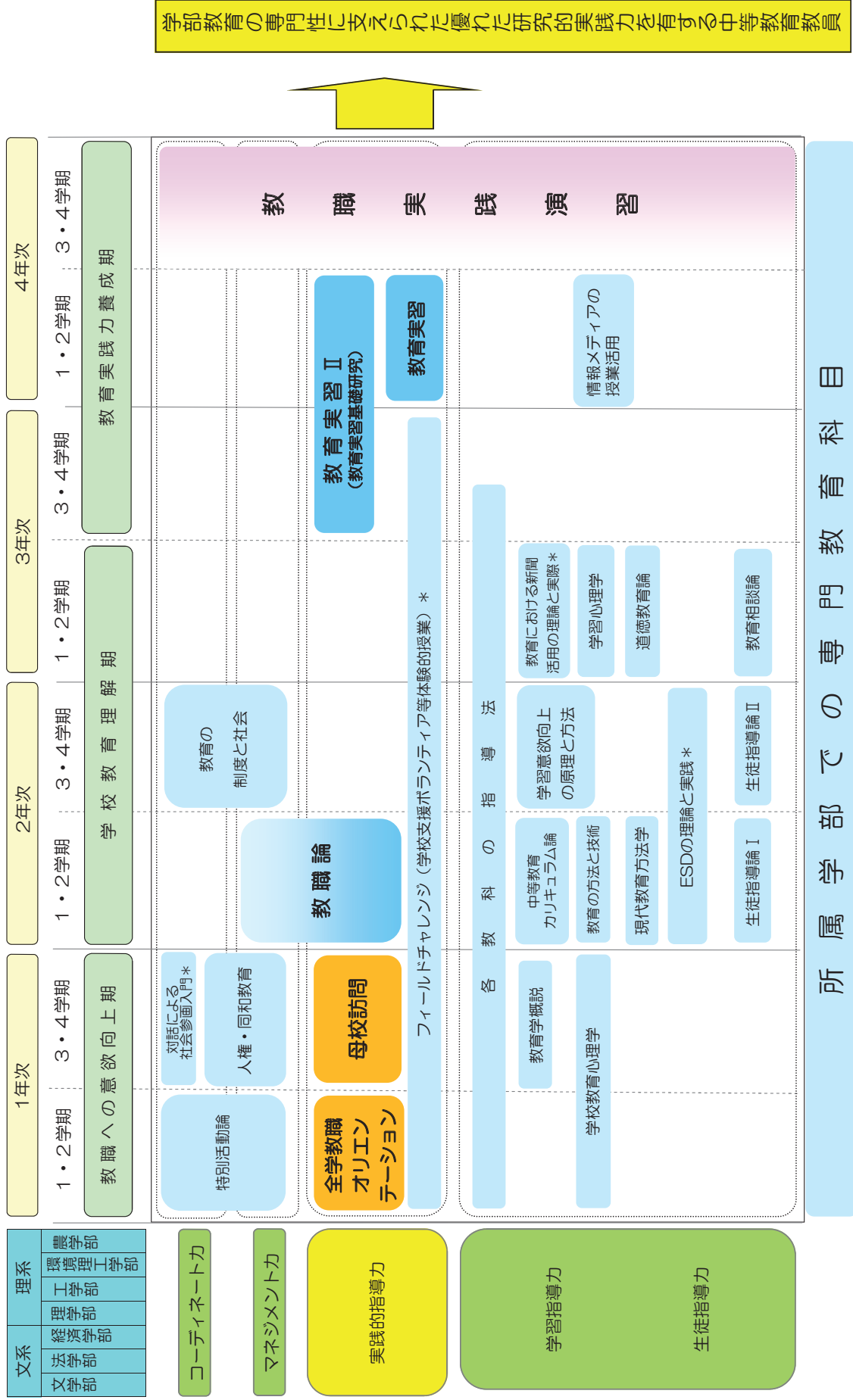
【有効期限と失効・再交付について】

- 教員免許状の有効期間は10年です。
- 有効期間の満了の日又は修了確認期限の2年2か月前から2か月前までの2年間に教員免許状更新講習を修了していなければ、免許状は失効します。
例：有効期限が平成31年3月31日の場合は、平成29年2月1日から平成31年1月31日までに教員免許状更新講習を修了し、かつ、教育委員会への更新手続を完了しなければなりません。
- 卒業後、教職に就かなかつた方（いわゆるペーパー・ティーチャー）は、教員免許状更新講習を受講できませんから、必ず一旦失効します。
- 失効後、仮にあなたが教員採用試験を受験し、合格した場合、あるいは臨時的任用者として採用される場合は、就任時までに更新講習を修了し、免許状の再交付を受けることになります。
- 更新講習を受講できるのは次の方です。
 - ①現職教員（臨時的任用者を含む。）
 - ②実習助手、寄宿舎指導員、学校栄養職員、養護職員
 - ③教育長、指導主事、社会教育主事、その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する指導等を行う者
 - ④教員採用内定者（臨時的任用予定者を含む。）
 - ⑤過去に教員として勤務した経験のある者
 - ⑥認定子ども園、認可保育所又は幼稚園も設置している者が設置する認可外保育施設などで勤務している場合に限り、幼稚園教諭免許状を有している保育士

【教員免許状更新講習とは？】

- 大学などが文部科学大臣の認定を受けて開設するものです。各自の都合に合わせて、出身大学以外でも受講することができます。
- 講習時間は30時間です。その内訳は「①必修領域（6時間）：国の教育政策や世界の教育の動向」、「②選択必修領域（6時間）：校種や免許種に応じて選択」、「③選択領域（18時間）：幼児、児童又は生徒に対する教科指導及び生徒指導上の課題」の3領域です。1日に6時間分の講習を受講しても5日間かかります。

全学教職課程カリキュラムマップ



学部教育の専門性に支えられた優れた研究的実践力を有する中等教育教員

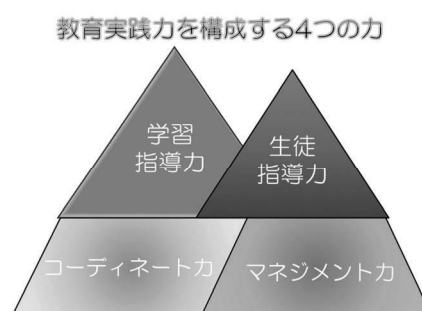
所属学部での専門教育科目

※表中の科目名は、必ずしも正式なものではなく、開講時期は年によって異なることがあります。
 ※所属学部や取得する免許によって履修時期は一律ではなく、異なる場合もあります。
 ※表中の*は、教職に関する科目に準ずる科目を指します。

3. 本学教職課程が育てる教師力 ―教育実践力を構成する4つの力

教師力とはいったいどのように捉えることができるのでしょうか。学校が抱える課題の多様化、複雑化の中で多忙を極めている学校現場において、今まで以上に即戦力のある教師を求める声が増えています。「即戦力」というと、例えば、教科内容の知識をたくさん持っている、教え方がうまい、生徒の問題行動への対応ができる、といった技術的で目に見えやすいことに重点を置きがちです。しかし、確かな教育の実践のためには、「コーディネート力」と「マネジメント力」に支えられた「学習指導力」と「生徒指導力」が必要です。教育実践力は、これら4つの力で構成され、互いに関わり、影響し合っている総合的な力です。本学では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つからなる教育実践力を4年間でバランスよく段階的に身につけることで、高い教育実践力を備えた教師の育成を行います。

ところで、4つの力にはさらに4つの下位項目があります。それぞれについて、以下に解説しましょう。



(1) 学習指導力

学習指導力を構成する4項目は次のとおりです。

①学習状況の把握力

子どものレディネスや学習状況を把握する力

②授業設計力

学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成する力

③授業実践力

様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を実践する力

④授業の分析・省察力

自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見する力



教員になるためには、まず何よりも学習指導力を身につける必要があります。生徒が学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体験できるように、教師は社会や文化をより深く理解し、生徒の学習を指導する力を身につける必要があります。

学習指導では、生徒の心身の発達の段階や特性を充分考慮するとともに、領域や教科・単元等のねらいや目標を理解したうえでこれを達成できるよう、計画的に指導を行うことが重要です。

教育実習等の学校現場で学ぶ機会を与えられた時には、学ぶ側の生徒と、指導する側の教師のそれぞれの立場から、次に示す視点で授業の様子をしっかりとらえて、自分自身の授業を計画・実施する時に活かすことができるようにしましょう。

- ①生徒の学習に対する興味・関心の持ち方と、教師の指導や支援
- ②生徒の学習活動の様子（状況）と、教師の指導や支援
- ③ねらいや目標を達成するために準備された環境や教材の役割と、教師の指導や支援
- ④生徒の発達段階や個に応じて工夫された教師の指導や支援
- ⑤①～④の校種や学年等による違い

教師が行っているひとつひとつの指導や支援には、それぞれ意味や意図があります。それらは学習の中での生徒の様子（状況）と関連付けることで見えてきます。授業観察の際は、目の前の事象にどのような意味や意図があるのか、問題意識を持って観察・参加してみましよう。

教育実習では、大学で学んできた学習指導の目標・内容・方法に関する理論と、学校現場で行われる実践とを往還し、実践的な学習指導力を身につけることが大切です。

なお、学習指導力を構成する力には、前の4項目の他に「教材分析力・教材開発力」が必要です。「①学習状況の把握力」とともに、教材を分析し、作り出す力である「教材分析力・教材開発力」に基づいて、「②授業設計力」が生み出されます。しかし、教育実習の期間はわずかに2～4週間と限られていますから、「教材分析力・教材開発力」を十分に深めることができません。そのため、ここでは項目として設定していませんが、「教材分析力・教材開発力」は専門教育科目と各教科の教科内容概論等を通して身につけることができますから、所属学部での取組を深めるようにしてください。

（2）生徒指導力

生徒指導力を構成する4項目は次のとおりです。

①子どもの発達的特徴を理解する力

子どもの発達的特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解する力

②子どもの生活の実態を理解する力

子どもの基本的な生活習慣の実態、学校・家庭・地域での遊びや生活の様子、人間関係等を理解する力

③コミュニケーション力

子どもと共感的にコミュニケーションする力、並びに、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導する力

④学校・学級での生活を指導する力

子ども理解に基づいて、基本的な社会規範やルールを守り、子どもが楽しく学校生活を送れるように指導する力

学校教育の役割は、学習指導ではありません。生徒の人格を完成させていくという学校教育の目的・目標を達成するためには、一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、支援する生徒指導が不可欠です。

皆さんも、今まで人に理解され支えられることで、喜んだり安心したりした経験があると思います。学校における生徒指導は、生徒理解にはじまります。教師が一人一人の生徒を心から理解しようとすることで、生徒が意欲的になり前向きに課題に取り組んだり、安

心して楽しく学校生活を送ったりすることができます。また、教師が生徒を理解しようと一生懸命に取り組めば、生徒もそういった教師を理解しようとしめます。

教師と生徒の関係は、相互理解や支え合いに基づいています。教師は、生徒の成長を喜び、自らの仕事に対するやりがいを感じ、職能のさらなる向上や自己実現に向かっていく、それが教職の世界です。

具体的には、生徒の基本的な生活習慣の実態や人間関係などを理解し、基本的な社会規範やルールを守れるよう指導することが必要です。さらに、ネットいじめや問題行動などの課題があることを理解し、学校内外の生活に目を向ける必要があります。

教育実習においては、単に生徒を注意深く観察するといった態度では、生徒指導力を身につけることはできません。生徒指導力を身につけていくために、実習以前にできることは何かについて考えておくことが大切です。

例えば、実習校の生徒指導の学校全体目標や指導計画、今年度の重点的指導内容を理解しておくことや、実際の指導場面における教師の動きや教師相互の連携の仕方を観察の視点に設定する、生徒とのあいさつや会話を実習の重点目標にするなど、十分に事前の準備をしましょう。実習後には、理解や経験した内容について、実習生同士で話し合い、学びを深めましょう。

教育実習では、こうした事前の生徒指導に関する学習と教育現場で行われる実践とを往還し、実践的な生徒指導力を身につけることが大切です。

(3) コーディネート力

コーディネート力を構成する4項目は次のとおりです。

①実習生同士で協働する力

実習生同士で学習指導や学級経営等に協働して取り組む力

②実習校の教職員とつながる力

指導教員をはじめとする実習校の先生方とコミュニケーションし、共同的、協動的につながる力

③協力者・連携機関を理解する力

学校を支援する協力者・専門機関等との連携・協力の現状を理解する力

④保護者・地域とつながる力

来校される保護者や地域の方とコミュニケーションし、共同的、協動的につながる力

学校教育は教員個人の力だけで成り立つものではなく、多くの協力者によって成り立っています。より良い教育実践を行っていくためには、教員は自身の力に一層の磨きをかけることはもちろんですが、他の教職員とも連携・協力することが必要です。

例えば、中学校には一般的に校長・副校長・教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員などの教職員がいます(表1)。その他にも学校には、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校医、学校歯科医、学校薬剤師などの非常勤専門職員がいます。こういった他の教職員と連携・協力していくことも教員には必要であり、連携・協力のためには、自分自身が相手と常日頃からコミュニケーションをとることも必要になってきます。

表1 学校教職員の主な職務

職名	主な職務
校長・副校長・教頭	学校経営・学校教育の管理・教職員の管理育成
主幹教諭	校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる
指導教諭	指導教諭は、優れた指導力を生かして、示範授業を行うことなどにより、指導方法の改革を行う
教諭	学習指導・特別活動など学習外の指導・学級学年経営など
養護教諭	保健管理・保健教育・保健室経営など
栄養教諭	児童生徒等の「栄養の指導及び管理をつかさどる」教員、その専門性を生かし、食に関する指導の全体計画の作成等で中心的な役割を果たす
事務職員	学校事務・学校運営への参画

また、学校内だけでなく、学校外にも目を向け、教育実践に有効な教育資源を見出し、見出した教育資源を教員自身がアレンジしたうえで、協力を得られるよう働きかけることが重要になってきます。そのためには、まずは協力者としてどのような人々が存在するのかを理解しておくことが必要です。

教員にとって重要な協力者として、生徒の保護者、地域の人々が挙げられます。保護者や地域の人々と連携・協力するには、例えば、地域の特色は何か、保護者のニーズは何か、得意分野は何かなどを常日頃から理解しておくことが必要です。保護者会や地域の行事等を積極的に活用し、連携・協力の素地を日頃から築きましょう。またその他に、児童福祉施設や病院など生徒や家庭に関わる専門機関と連携していくことも求められています。

教育実習では、コーディネート力の基礎として、人と人、組織と組織それぞれのつながりの実態を学び、様々な人・組織とつながる力を身につけることが大切です。また、学校における教師の動きをよく観ておくことも大切です。保護者の方々や来校者の方々には、必ずあいさつをするよう心がけましょう。

なお、教育実習においては、実習先に自分以外の実習生がいないことも想定されます。その場合は、他校の実習生と情報交換したり、教育実習以外の場で日頃から教職を目指す学生同士で協同するなどし、力を高めていきましょう。

(4) マネジメント力

マネジメント力を構成する4項目は次のとおりです。

①セルフマネジメント力

自分自身をコントロールし、意欲と課題意識を持って実践に取り組む力

②専門職マネジメント力

教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等をマネジメントする力

③学級・学年マネジメント力

学級・学年目標の実現に向けて、子どもの組織や活動をマネジメントする力

④学校マネジメントを理解する力

学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解する力

教師には、自分自身をコントロールし、専門職として求められる資質能力をマネジメントする力が求められます。また、学校目標や学級目標の達成に向けて生徒の活動や学校組織をマネジメントしていく力が必要です。すなわち、自身の成長や学校・学級で生じる様々な教育課題の改善、学校目標の達成といったことに向け、マネジメント・サイクルを効率的かつ効果的に回すことのできる力が必要です。

マネジメント・サイクルとは、Plan（計画）－ Do（実行）－ Check（評価）－ Action（更新）のPDCAサイクルです。学校では、学校教育目標に基づき、教職員が一致団結してこのマネジメント・サイクルを導入した学校・学級運営が行われています。

教育実習では実習校でPDCAサイクルがどのように実施されているかという具体や工夫点をしっかり見取ってください。また、実習校の教育目標を予めよく理解しておくことや、教員の使命や職務についての理解や専門職としての生き方を学習することが必要です。

例えば、生徒の健康と安全を守ることは学校の責務であり、一人一人の教師が常に配慮しなければならないことです。また、生徒は教室の中だけで教育されているわけではありません。教育環境によって、教育されている部分もありますので、学校の教育環境を自分の目でしっかり観察してください。いくつか、その視点を挙げておきます。

- ①教室はどこに配置されているか
- ②運動場やプール・体育館はどのように配置されているか
- ③職員室や保健室はどこに配置されているか
- ④非常口や避難経路はどこにあるか

学校の設備は、それぞれの機能が十分に発揮され、しかも生徒に教師の目が届くように配慮されていることを自分の目で確かめましょう。



4つの力についてそれぞれ説明を行いました。4つの力に関して、どの時期に具体的にどのようなことができれば良いのか、またできるようになることが求められているのかを示したのが75頁の教職実践ポートフォリオです。教職実践ポートフォリオに基づいて定期的に自らの力を自己評価し、自己課題の克服に取り組むことで、ESDの理念を持ち、4つの力で構成される教育実践力をバランスよく備えた反省的で創造的な教員へと近づいていくことでしょう。

第Ⅱ部

全学教職コア・カリキュラムの概要

1. 母校訪問

(1) 母校訪問の意義

「母校訪問」とは、教職を目指す皆さんに岡山大学が提供する独自のプログラムです。その目的とは、以下の3つです。

- ①生徒としてではなく教師の視点に立って母校を訪問し、学校現場を見ること
- ②教職に対する理解を深めること
- ③教職課程を履修していくうえでの自己課題を発見すること

皆さんにとってこの母校訪問は、おそらく初めて授業や学級の様子を観察する場となり、生徒であったころとは別の角度から先生方や生徒を見る機会となるはずです。ですから、皆さんには、生徒としてではなく、これから教師を目指すという意識を持ち、自分が教師になったらとか、教師とはどのようなものなのかということを考えながら1日を過ごすことを求めています。そして、自分はどんな教師になりたいのか、どのようなことを学んでいきたいのかを考える土台にし、その後に控える教職課程にしっかりと取り組んでほしいと思います。

まだ教師になることに明確なイメージが持てていない人も、教師への憧れがある人も、実際の現場を見ることにより、イメージを持ったり憧れを強めたりできる機会になることを期待しています。

(2) 母校訪問の期間と内容

期間

母校訪問の期間は1日間です。大学が長期休業中であり、かつ高校が通常の授業日である時期を選び、1日間の訪問を行います。このような主旨から、多くの場合、夏季休業期間の9月に実施することになります。なお、9月の実施がどうしても難しい場合は、年度内に実施することになりますが、いずれの日程で実施するかは、後述する手続に従って、あなた自身が高校側と調整し、決定することになります。

内容

母校訪問は、岡山大学で教職課程を履修する学生が最初に取り組むプログラムであり、2年次以降に開講される必修科目「教職論」の履修要件となるものです。すなわち、1年次のうちに(=前年度末までに)母校訪問を終えていなければ、「教職論」を履修することはできません。

1日間の訪問の中で、皆さんが必ず取り組まなければならないのは①授業・学級観察、②恩師へのインタビュー、の2つです。皆さんの先輩の中には、後輩の前に大学生活の様子について講演する機会、授業補助や部活動の指導の機会を頂いた先輩もいます。これらは必須事項ではありませんが、母校訪問での経験は、学校や生徒への理解を深め、教職に向かう自覚を高めるとともに、自己の課題の発見につながるため、機会があれば積極的に経験させていただくようにすることをお勧めします。

(3) 母校訪問のための事前準備

全学教職オリエンテーションに参加する

全学教職オリエンテーションで、母校訪問についての説明を受けます。また、母校訪問の履修登録を教師教育開発センターホームページから必ず行ってください。

「教職実践ポートフォリオ」に基づいて自己の現状と課題を確認する

76 頁の「教職実践ポートフォリオ」の指標に基づいて、全学教職オリエンテーション終了後、母校訪問に向けた自己の課題の整理に努め、学校教育への関心を高めます。学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力のそれぞれ4項目ずつの自己評価指標に対して、今のあなたはどのような水準にあるでしょうか？ また、母校訪問が終了したら、77 頁の指標に基づいて、あなた自身の教職志望度の強さを再確認しましょう。

「母校訪問計画書」を作成し、提出する

全学教職オリエンテーション（前半部）が終了したら、「母校訪問計画書」（見本は 21 頁に掲載）に記入し、本紙を全学教職オリエンテーション（後半部）で提出してください。なお、計画書の作成は慎重かつ丁寧に行ってください。提出された計画書は大学から皆さんの母校に送付され、母校の先生方が読まれることになります。読まれる先生方は必ずしも皆さんのことをよく知っている先生とは限りません。誤字脱字に注意することはもちろんのこと、読まれる先生方がこの計画書を見てどのように感じるだろうかということを想像して計画書の作成を行ってください。より良い計画書の作成がより良い母校訪問への第 1 歩です。なお、提出前に必ず各自でコピーを保管しておくようにしてください。

各自で高校へ電話連絡をする

計画書が提出された後、センターは高校宛に受入れを依頼する文書を送付し、学生から高校に電話連絡をさせる旨を伝えます。その後、皆さんは、必ず決められた期間内に高校に電話連絡を入れ、教頭先生（又は副校長先生）、あるいは教務主任の先生に直接受入れをお願いしてください。なお、電話依頼にあたっては、電話期間ギリギリではなく、早めに電話をすることを心がけるとともに、事前に電話依頼のシミュレーションを行ったうえで電話するようにしましょう。受け入れて頂けることになれば、そのまま日程調整を進めるとともに、計画書の【確認事項ならびに準備物等】の欄に従って、必要な事項を確認してください。受入れの可否に関わらず電話の結果を、指定された期間内に必ず報告してください。（万が一、受け入れて頂けなかった場合は、母校訪問に代えて「スクールボランティア」に取り組むことになります。）

また、保険（学研災又は生協等の保険）への加入を各自で行ってください。未加入の場合、母校訪問の履修は認められません。保険に加入していることを電話結果とともに報告してください。

(4) 訪問時の注意

教職志望学生としての自覚と責任

母校を訪問する際、どのような自覚と責任を持って臨むべきでしょうか？ 大切なこと

は、教職を目指す者としての「自覚と責任」を、単に頭の中に描くだけではなく、具体的な態度や言葉として、あるいは目に見える行動として示し、相手に伝えることにあります。以下にいくつか例を示します。

- 服装・頭髪・名札…スーツ着用，髪を染めていれば黒に戻すこと。名札は必須。
- 時間厳守…決められた時刻の少なくとも10分前にはその場にしていること。
- 挨拶…校舎内で出会う人には、教職員や学外者を問わず、自分から進んで挨拶をすること。教室や職員室への入退室の際も同様です。
- 準備物等の確認…「母校訪問計画書【様式1】」21頁を参照。
- 鞆の置き場所…机や膝の上には絶対に置かない。床に置くことが鉄則です。
- 節度ある生徒との触れ合い…生徒との私的交渉は行わないこと。
- 守秘義務の遵守…母校訪問で知り得た個人情報を漏らさないこと。

ここに示したことは、教職を目指す者として学校を訪問する際に、最低限、守るべき事項です。もうひとつ大切なことは、あなた自身が学ぶ姿勢と謙虚さを持って訪問することです。目の前でおこる事柄に対して、常に謙虚に「なぜなのか？」と問い続け、またその問いを鍛える努力を忘れないようにしてください。

授業観察・学級観察に係る留意事項

最低でも1時間の授業観察・学級観察をすることが必要です。教室で授業を観察するとき、あなたは誰の動きに注目し、何を、どのように記録しますか？ そのときの視点・観点はどこに置いているのでしょうか？ ここで手がかりとなるのが「教職実践ポートフォリオ」の77頁です。ここには母校訪問を終えた皆さんが、どのように成長していて欲しいのかを具体的な項目として示しています。この項目に事前に目を通しておくとともに、少なくとも次の事柄について、事前に見通しを持つようにしてください。

- 観察記録をどのようにとれば良いか（ノートの工夫，記録する事項の厳選等）？
→クリップボードは必携です。各自で購入しておきましょう。
- 適切に観察できるためには、教室のどこに立っていることが望ましいか？
→後方からだけでなく、窓側に立って教師と生徒の相互作用に注目することも必要です。
- 観察記録に基づいて、事後にどのようなレポートを作成すれば良いか？
→記憶の新しいうちに、見たこと、聞いたことを文章に残すことに努めましょう。

インタビューに関する留意事項

母校訪問の期間中、恩師に対して1時間程度のインタビューを行います。その際、たとえば、

- 生徒であった頃には知ることのなかった「職業としての教師」の実際
- 学校-地域-家庭の連携と学校教育の課題
- 教職あるいは公教育の社会的課題
- 教科のスペシャリストとしての自己研鑽の実際
- いじめや不登校などの教育臨床的課題に対する意見

といった具合に複数の項目を立て、順番に尋ねていく方法もあります。逆に、敢えて細か

い質問を設定するのではなく、大きなテーマのもとで自由にお話をして頂く方法もあるでしょう。

(5) 母校訪問を終えた後に行うこと

母校訪問報告書を作成する

単に訪問しただけでは、その経験はあなたの血肉とはなりません。見聞きしたこと、体験したことを自らの確かな言葉に置き換える努力をして、初めて意味のある「体験」として、あるいは「見識」として、あなたのなかに定着するのです。

母校訪問後には「母校訪問報告書【様式2】」（見本は22頁に掲載）に従ってレポートを作成します。これは①母校訪問での1日の活動記録、②授業観察レポート、③インタビュー・レポート、④母校訪問を終えた自己課題の深まり、の4部構成となります。母校訪問終了後から1週間を提出期限とします。センター事務室まで提出してください。なお、必ず自分の手元にコピーを持っておいてください。母校訪問事後指導の際に必要になります。

母校へのお礼状を作成し送付する

母校訪問を終了したらすぐに、訪問を受け入れて頂いた母校の校長先生、ならびにお世話になった先生方にお礼状をしたためましょう。書式と内容は任意です。社会人として、マナーに適った手紙の書き方を勉強する機会として取り組んでください。礼儀に合うお礼状の書き方を会得すれば、きっとあなた自身の幅が広がることになるでしょう。

母校訪問事後指導に参加する

母校訪問終了後に、母校訪問事後指導を行います。ここで皆さんが母校訪問を通して感じたこと、学んだことを、作成した母校訪問報告書を用いながら、自らの経験を他者にプレゼンテーションしたり、逆に他者のプレゼンテーションを聞いたりすることで、母校訪問での経験が一層あなたにとって充実したものになるでしょう。なお、例年10月頃に文系、理系のそれぞれの学生さんを対象に実施していますが、詳細は掲示板や教師教育開発センターホームページで周知します。この母校訪問事後指導への参加をもってはじめて母校訪問を終えたこととなります。よく注意しておき、必ず参加してください。

(6) 母校訪問 Q&A

Q1：ここで言う「恩師」とは誰のことですか？

→あなたの在学中、直接に何かの教科を教えて頂いた先生、あるいは学級担任であった先生で、現在も母校に勤務しておられる先生が対象です。なお、直接にお世話になった恩師が他校へ異動されていた場合でも、訪問先はあなたの母校に限ります。

Q2：授業観察のための教科はどのように決めれば良いでしょうか？

→あなたが取得しようとする免許教科の授業を見せて頂けるよう、学校にお願いしてください。なお、該当する教科の授業（例：情報、商業、農業等）がない場合には、比較的近い分野・領域の教科を選んでください。

Q3：配当学級を決める必要がありますか？

→事前に恩師と相談のうえ、可能ならば配当学級を決めてください。なお、この点は高

校側の事情に応じて柔軟に対応してください。

Q4：高校ではなく中学校を訪問したいのですが可能でしょうか？

→母校訪問は高校に限定しています。また、高校在学中に転校した場合は、転校前の高校ではなく、卒業した高校を訪問することになります。

Q5：母校のある場所から実家が引越したので、泊まる場所がありません。

→各自でホテル等を手配して母校訪問を行うことは可能ですが、宿泊費等は自費になります。このような事情のある方は、「母校訪問」ではなく、スクールボランティア（「教師への道」インターンシップ事業（岡山県）や学校支援ボランティア（岡山市）等）への参加を勧めます。母校が統廃合等の事情によって無くなっている場合や母校が実家や下宿先から著しく遠い場合も同様に考えてください。

Q6：母校が2学期制のため大学の夏季休業中に訪問することができそうにありません。

どうしたら良いでしょうか？

→9月にこだわらず年度内に訪問できるよう高校側と調整してください。なお、9月に留学に行くことが予め決まっているといった場合も同様に考えてください。

Q7：母校訪問計画書は提出したのですが、提出後に母校訪問を中止させていただくことは可能でしょうか？

→あなたが提出した母校訪問計画書を、教師教育開発センターから高校に送付するよりも前であれば、教師教育開発センター事務室に相談することで可能です。計画書の発送以降に中止することは原則として認められません。なお、中止をせざるを得ない相当の事由のある場合は、できるだけ早急にセンター事務室にその旨を知らせてください。自らの判断で高校側と交渉することは認められません。

Q8：母校訪問の日程が決まった後、急なバイトが入ったので、そちらを優先したいのですが、日程の変更は可能でしょうか？

→いったん決まった日程の変更は原則としてできません。日程決定後に他の用事が生じても、優先すべきは母校訪問です。部活やサークルの試合、自動車学校の教習等も日程変更の理由になりません。ただし、変更を考慮せざるを得ない相当の事由が生じる場合もあり得ます。その際は速やかにセンター事務室まで知らせてください。Q7と同様、自らの判断で高校側と交渉することは認められません。

Q9：母校訪問事後指導の実施日以降に母校訪問を行うのですが、その場合も事後指導に参加することになるのでしょうか？

→事後指導に参加をしてください。なお、母校訪問ではなくスクールボランティアに振り替えた人も同様に母校訪問事後指導に参加してください。

Q10：母校訪問にエントリーしたら、教職を必ず履修し教員免許を取得をしないとイケなくなるのでしょうか？

→母校訪問を終えて、教職の履修を断念することは構いません。ただし、母校訪問にエントリーした以上、あなたの心境の変化がどうであれ母校訪問のプログラムに最後まで参加する（報告書を提出し、事後指導に参加する）ことは必要になります。従って、例えば、1日の母校訪問を終えた後、教職を断念したことを理由に教師教育開発センターに何の連絡もせず報告書を提出しないということは認められません。

「母校訪問」 手続の流れ

手続事項	手続概要
全学教職オリエンテーション	学生 全学教職オリエンテーション（母校訪問事前指導を含む）に参加する。
書類の送付	大学 → 高校 母校訪問の依頼文書及び母校訪問計画書を「教育実習担当者様」宛てに簡易書留にて郵送。
受入可否の検討	高校 学生の受入可否を検討。
依頼の電話	学生 → 高校 母校訪問の依頼を教頭（副校長）又は教務主任の先生へ電話。
電話依頼に対する回答	高校 → 学生 受入可否が決まっている場合、受入可否を回答。決まっていない場合は、検討中と回答。 ※この期間中に受入可否や日程を決める必要はありません。
回答の結果報告	学生 → 大学 依頼電話の結果をWeb報告（受入可否や日程が決まっていない場合は、その旨を報告。） ※この期間中に受入可否や日程を決める必要はありません。
日程調整 (受入可の場合)	<p>＜高校と学生双方で日程調整する場合＞</p> 高校 ↔ 学生 高校と学生とで日程調整を行う。 ※早急に日程を決める必要はありません。 2学期の行事等が決定の後、日程調整しても構いません。
	<p>＜高校が日程を指定する場合＞</p> 高校 日程を決定する。 ※早急に日程を決める必要はありません。 2学期の行事等が決定の後、日程調整しても構いません。
受入日等の連絡	高校 → 大学 「母校訪問受入承諾書」に受入日、連絡事項等必要事項を記入のうえ、FAX又は郵送で返送。
	大学 → 学生 「母校訪問受入承諾書」に記入された受入日、連絡事項等を学生に伝える。 ※ただし、高等学校から学生へ直接受入日の連絡があった場合、大学から学生へ連絡はいたしません。
母校訪問	高校 ↔ 学生 授業観察、インタビュー等を行う。
お礼状送付	学生 → 高校 母校訪問のお礼状を高校へ送付。
報告書提出	学生 → 大学 母校訪問報告書を大学へ提出。
母校訪問事後指導	学生 母校訪問事後指導に参加する。

※ 高等学校の都合により、母校訪問が困難な場合は代替措置として、別途プログラムを課します。

■■■ 母校訪問を終えた先輩から ■■■

- 学生の頃には気付けなかった、先生方の人間性の素晴らしさに気付くと同時に、自分の未熟さ、至らなさをひしひしと感ずることができた。（文学部）
- 母校訪問前には「自分の目指す教師像」というものが、とても漠然としていたが、母校の先生にインタビューをし、それをふまえて授業を観察し、高校生の時に受けていた授業を客観的に見ることで、様々な発見があり、自分の目指す教師像がよりはっきりとし、なおかつ、ハードルの上がるものとなりました。（文学部）
- インタビューをきっかけに教職への思いが強まったことから、今までの自分の考えを改めてどうすれば単なる授業ではなく、いかに生徒にわかりやすく教えられるのか、独り善がりな授業にならないためにはどうすればよいのかということを経後の自分の課題としていきたいと思ひます。（法学部）
- 先生は生徒にわからないことを教えるだけでなく勉強法や勉強に対する姿勢などのことにも対処しなくてはいけないのだと実感しました。1人1人抱えている悩みが違ひ、全体に対しての方向付けと、個人に対するアプローチのどちらも必要なのだと感ずました。（経済学部）
- 教師になろうという気持ちがとても高まったので、しっかり教育について学んでいこうと思ひた。（理学部）
- 今まで何となく教師になろうと思ひていたが、いかに自分があまかったか実感させられた。（理学部）
- 母校訪問を終えて、教師に対するイメージがガラリと変わった。私が3年間見てきた教師の仕事はほんの一部でしかなく、見えない所で先生方は生徒・学校のために仕事を行っていることを知った。（工学部）
- 母校訪問を通して高校教師への憧れが強くなった。2年からの教職の授業を大切にし、1日でも早く教壇に立てるよう、頑張りたひと思ひ。（環境理工学部）
- 「生物の先生」ではなく、あくまでも「理科の先生」になる、という意識を忘れずに持つておくべきだと感ずた。（農学部）

母校訪問計画書

記入日：平成 年 月 日

【基本情報】

フリガナ		性別	生年月日	都道府県
氏名		男・女 □昭和 □平成	年月日	都道府県
学生番号		学部	学科	
現住所	〒 -			
連絡先	電話番号(携帯)： メールアドレス(携帯)：			
訪問校	立			
訪問校の所在地	〒 - 市 ()			
訪問希望日	平成 年 月 日 ()			
取得希望の教員免許	□中学校 □高等学校	教科名： 教科名：	観察希望教科名	
指導教員の氏名・印鑑	(印) 大学での指導教員、チューター、もしくは学科・課主任の氏名			

【確認事項ならびに準備物等】

学級担任と教科担当教員の氏名	
母校までの交通手段	徒歩 自転車 公共交通機関 ※左記以外の交通手段は避けること。自転車の場合、事前に駐輪場を確認しておくこと ※訪問校の受入担当教員(随時)と連絡は打合せて下さい。
確認事項ならびに準備物	<input type="checkbox"/> 上記の項目は、あくまで目安なので、必要な確認事項や準備物は、訪問校の受入担当教員(随時)と連絡は打合せて下さい。 <input type="checkbox"/> 上履き・体育館シューズ <input type="checkbox"/> 名札 <input type="checkbox"/> 着替え(ジャージ等、必要に応じて) <input type="checkbox"/> 授業観察・インタビュー記録用のノートあるいはレポート用紙 <input type="checkbox"/> クリップボード(授業観察記録用) <input type="checkbox"/> お弁当(もしくは給食費 ※学校の指示に従うこと) <input type="checkbox"/> 駐輪場所(自転車で行く場合) ※学校の指示に従うこと <input type="checkbox"/> 観察する教科の教科書(高校時代のものを使用) <input type="checkbox"/> 集合場所・集合時刻等 <input type="checkbox"/> その他、必要な準備物 ()

【受入校指導教員へのインタビュー】

質問事項	
	上記の質問を設定した理由

【自己PR】

あなたが教職を志望する理由	
めざしている教師像	
自己分析	
母校訪問に向けた思い	

【様式2】

母校訪問報告書

学部・学科	学部	学科	学生番号	平成 年 月 日 提出
氏名				
訪問学校名				
訪問学校の所在地	〒 - - 市 (- - -)			
訪問日	平成 年 月 日 ()	授業観察教科		
当日の活動記録				
校時 (時間)	活動内容			
(記入例)				
1 時限	2年生の国語 (古典) の授業を観察した。			

【様式2】

1 授業観察 (気づきや感想も含め、詳しく書く)	
2 インタビュー (気づきや感想も含め、詳しく書く)	
3 母校訪問を終えての自己課題の深まり	

2. 教職論

(1) 授業科目「教職論C (1)・(2)」の目的

皆さんが教職を目指そうと決めたきっかけは何でしょうか。教職志望にあたっては様々な目的や理由があると思いますが、昨年度、母校訪問を経験した皆さんは、「専門職としての教職」に就きたいという思いをさらに強めていることと思います。

しかし、なぜ自分は教師を希望するのか、自分は教師に向いているのか、教師になるにはどんな勉強をすればいいのかを深く考えずに、何となく漠然と夢を見ていただけでは教師にはなれません。教職論の授業を通じて教職の意義、教員の役割、職務内容、基礎的・基本的な事項を学ぶ中で、自らの能力・適性について考察を深め、教職を目指す決意を強くしてほしいと思います。

今日の教育界の状況を鑑み、不安に駆られている人もいるかもしれませんが、観念的にとらえるのではなく、現実を見据えた実践的な話題を数多く学ぶことで、問題解決に向かう自信もついてきます。教職論の授業では、ポートフォリオの4つの力を目指して、一人一人の資質能力の向上に努めていくことが出来るように、基礎的・基本的な学習のうえに、可能な限り具体的で身近な事例を取り上げ現場に即した学習をしていきます。この時期にしっかりと自分に向き合い、学校教育の理解を深めるとともに、教職の醍醐味を感じられるようになることを期待しています。

(2) 教職論C (1)・(2) の授業計画

教職論C (1) では、教員と学校の制度的位置と、教育職員としての基本を学びます。それをもとに教育活動の実際について、学校現場の現実を取り上げていきます。日本の教育は階層的に組み立てられた法令を根拠に、指導内容は全国共通の「学習指導要領」の上に成り立っています。しかし、その理解の程度や活用の仕方によって教育の深まりは変わってきます。教職課程の早い時期に、求められている教育の理念や基礎的・基本的な学習をじっくりしておくことが、今後に予定されている様々な教職関係の科目に効果的な力を発揮します。

また、学校では教科指導だけでなく様々な教育活動が展開されています。基本的な知識の理解とともに、学校現場で日々起きている事象の問題解決にいたる道筋を広く勉強していくことも重要です。教科指導以外の部分にも自信を持てるように、少人数の演習形式を取り入れ、一人一人が問題意識を持って、その解決に主体的に取り組むことができるようにしていきます。

教職論C (2) では岡山大学の特徴であるESDの観点から、持続可能な社会の担い手づくりを目指す教育を実現するために、学校教育のデザイナーとしての教員を考える流れになっています。持続可能な社会の構築との関わりで、これまでの教育実践を捉え直す動きの中で、これからの子どもたちを育てていく皆さんに期待されている概念とその実行力を学びます。

教職論C (1)・(2) の授業全体を通じて、授業者の学校現場での経験を踏まえて、学校や生徒・保護者の生の姿を出来るだけ多く伝え、少々の苦労があってもそれを上回る手応えがあることが教職の魅力であることを実感できるようにしたいと思います。少人数

による学生主体の演習型授業形態で、プレゼンテーションやディスカッションの能力を伸ばしつつ、教育に対する自分としての考えを深めていく時間にしてほしいと思います。

(3) 使用教科書、教材について

主に山口健二／高瀬淳編『教職論ハンドブック』（ミネルヴァ書房）を使用します。本書は本学の「全学教職コア・カリキュラム」の入門期で使用できるよう、教育学部と教師教育開発センターの教員が共同執筆したものです。全体を通して具体的な記述が多く、さらにその根拠となるデータや法令も豊富に含めています。授業だけでなく、自主学習にも役立ててください。さらに、毎時間のテーマに沿ったレジュメや資料を配付し、時間的な制限で授業では説明しきれないことも含め、できるだけ多くの情報を提供していきますのでしっかり活用してください。また、教科指導や国の教育行政の流れを理解するために「学習指導要領」と教科の「解説書」を併用し、3年次後半（3・4学期）の教育実習基礎研究へのスムーズな移行ができるようにします。

(4) 授業の進め方と課題

毎時間の授業で「リアクションペーパー」を提出してもらい、その中で出された質問や意見に次回の授業で解答し、皆さんとのコミュニケーションを図りながら授業をすすめていきます。自分の考えを的確に言葉で表現できることは、教師にとって大変重要な力ですので、毎時間少しでも多く書くことを心がけてスキルアップしてほしいと思います。

そして、教職論C（1）と（2）の間の中間期にはレポート作成を課題にしています。テーマは「新聞記事で扱われている教育問題の記事を読んだの考察」や、自分で選んだ特定の教師の実践書を読んで、「優れた教師に学ぶ」というレポートを作成するなど、年度によって内容は変わります。レポートを作成することで教職に就くということの意味をより深く考えるとともに、自分の考えを他の人に伝えることができるような表現力の向上を目指します。より実践的で主体的な学びができるように、少人数での演習型授業を計画しています。他の意見を聞き、自分とは異なる角度から考え、また他の人の発表に対して様々な表現で自分の考えを述べる事が出来ることは、教職に就く人の重要な資質の一つです。授業最後の課題である「まとめレポート」にそれを結実させてほしいと思います。

なお、授業計画の詳細はシラバス等で確認してください。

3. 介護等体験

(1) 実施スケジュール及び手続の流れ

中学校教員免許状を取得する場合、介護等体験が義務付けられています。

介護等体験は、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の計7日間実施します。



時期等	手続等	詳細
1年生	1月 事前申込掲示確認	介護等体験の事前申込についての案内を各自、所属学部で掲示確認する。
	2月末締切 事前申込書提出	<提出物> ●事前申込書 ●「麻疹の抗体検査結果」もしくは「予防接種の証明書」（いずれもコピー） ●事前指導教材費等 600円（金額は変更する場合があります）
	3月下旬 正式申込掲示確認	介護等体験の正式申込についての案内を各自、所属学部で掲示確認する。
2年生	4月初旬締切 正式申込書提出	<提出物> ●介護等体験申込書（社会福祉施設用・特別支援学校用） ●介護等体験費用 7,500円（金額は変更する場合があります）
	4月 事前指導参加	介護等体験事前指導Ⅰ・Ⅱに参加。 日程は決定次第掲示します。 ※Ⅰ・Ⅱの両方を受講しなければ介護等体験には参加できません。
	5月上旬 健康診断書の申請・交付の掲示確認	健康診断書の申請交付についての案内を各自、所属学部で掲示確認する。
	6月上旬 実施日の掲示確認	実施日、実施施設、実施校を掲示でお知らせします。
	7月～翌年2月 介護等体験実施	特別支援学校2日間 社会福祉施設5日間
	介護等体験終了後 記録・レポート提出	<提出物> ●介護等体験証明書 社会福祉施設及び特別支援学校 各1部 ●体験・参加の記録 社会福祉施設（5日分）及び特別支援学校（2日分） ●レポート 社会福祉施設及び特別支援学校 各1部 ※介護等体験終了後、1週間以内に所属学部の教務担当窓口へ提出します。

(2) 介護等体験に係る留意事項

介護等体験とは

介護等体験とは、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に基づいて、小学校・中学校の教員免許状取得希望者に義務付けられているものです。この法律は、教員志願者が個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めることにより、教員としての資質向上を図り、義務教育の充実を期することを目的としています。

介護等体験は、特別支援学校と社会福祉施設において実施します。障害のある方や体の弱い方、高齢者など、皆さんが普段接する機会の少ない人々との交流を通じて、相手を援助するうえで大切にすべき姿勢や視点を体験的に学び、人の心の痛みのわかる人づくり、多様な価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資することを目的としています。

対象者

中学校教員免許状取得希望者で、2年生以上の者が対象です。学業の計画を考慮して、できるだけ早い学年で実施するようにしてください。

実施機関・時期

いずれも岡山県内の特別支援学校及び社会福祉施設となります。

特別支援学校（盲・聾・肢体不自由・知的障害等） 2日間

社会福祉施設 5日間

体験時期は、7月～2月で、申込時に期間の希望を出すことが可能ですが、希望者多数の場合は必ずしも希望どおりとならない場合もあります。

費用

事前指導教材費等 600円

社会福祉施設介護等体験費用 7,500円

特別支援学校証明書発行手数料は、学校によって金額が異なります。

保険への加入ならびに麻疹への対応

「学生教育研究災害障害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険（Aコース）」に必ず加入してください。保険加入手続は、学務部学生支援課でできます。

保険の加入状況は、学務システムの【住所・電話番号・学研災情報等】で確認できます。

麻疹の感染拡大防止のために、申込時に麻疹の免疫が確認できる抗体値の検査結果もしくは、ワクチンの予防接種を受けた証明書（母子手帳、予防接種手帳又は医療機関が交付する予防接種済証明書など）の提出が必要です。まだ検査を受けていない場合は、医療機関で検査し、抗体値が低い場合は、ワクチンの予防接種を受けてください。

事前指導

岡山大学では、特別支援学校1コマ、社会福祉施設1コマの計2コマを行います（日程等は掲示により周知します）。全員出席が必須です。また、体験先の特別支援学校や社会福祉施設で独自に事前指導を行う場合もあるので、よく確認してください。

体験・参加の記録及びレポート提出

体験中は、体験・参加の記録を毎日記入し、体験先の先生に提出し、印をもらってください。体験終了後は、レポートを作成し、体験・参加の記録と一緒に所属学部の教務担当窓口へ提出してください。

日程変更

申込手続き後の日程変更はできないため、申込時によく考えたうえで実施日程の希望を記入してください。なお、特別支援学校と社会福祉施設を同じ月で希望しないでください。

辞退について

申込手続き後の辞退は認めません。やむを得ない理由が発生した場合は、直ちに所属学部の教務担当窓口まで相談してください。

単位について

介護等体験は、授業科目ではないため単位は認定されません。

証明書について

卒業時に教員免許状を申請する際には、介護等体験証明書が必要となります（中学校教諭免許状を希望する者のみ）。

各々の介護等体験の際には、終了時に受領できるよう、あらかじめ証明書作成依頼を行ってください。

体験の中止について

体験実施期間中に、病気など急な事情で体験を中止せざるを得なくなった場合は、直ちに体験先の学校・施設及び所属学部の教務担当窓口まで連絡してください。

お礼状の作成と送付

体験終了後には、各自で学校長・施設長及びお世話になった担当者の方にお礼状を送ってください。

4. 教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）

（1）授業科目「教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）」の目的

どうして教育実習を行う必要があるのでしょうか？ どのような心構えで教育実習に臨めば良いのでしょうか？ 教育実習までに何を理解し、どんな力を身につけ、何を準備しておけば良いのでしょうか？ 守秘義務，説明責任，法令遵守，学校教育の抱える今日的課題等について説明できますか？ このような疑問に答えるため，3年次後半（3・4学期）から4年次前半（1・2学期）に大学で履修する科目が「教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）」です。「教育実習事前事後指導科目」とも呼んでいます。教育実習の意義や目的を理解し，教師としての心構えを身につけるとともに，学習指導や生徒指導などの実践的指導力の基礎を培い，実りある教育実習にするための事前事後指導を行うことが，この授業の目的です。

（2）教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）の授業計画

教育実習では，実際に生徒を前にして授業を行うこととなります。そのためには，学習指導案を作成したり，板書計画を立てたり，実習授業で用いる教材，資料，ワークシート等を作成したりしなければなりません。また，実施した授業を評価するための観点や方法について理解しておくことも必要です。

教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）は，次頁の表に示すとおり，3年次後半（3・4学期）から4年次前半（1・2学期）までの「年度またがり方式」で開講します。学習指導に関連する内容では，文系（文・法・経済）と理系（理・工・環理・農）に分け，さらに取得予定の免許教科別にグループを構成し，少人数による学生主体の演習型授業形態を行い，プレゼンテーションやディスカッションの能力向上を目指します。

第1・2回のガイダンスに続いて，第3・4回では，「分かる授業ができる学習指導案の作り方」を学びます。提示された模範の学習指導案について，学習指導要領や教科別解説書を手がかりに学習目標・内容，指導上の留意点等を確認しながら，学習指導案作成の手順と方法について原理原則を学びます。

第5・6回では，ビデオで撮影された授業とその学習指導案を照合しながら，授業構成や指導方法，生徒の学習の様子などを観察し，第3・4回で学習したことが具体的にどのように展開されているか，教師の意図（仕掛け）や教科指導法等の学習指導の基礎を学びます。

第7～10回では，各教科・グループ別に提示された単元の学習指導案を各自で実際に作成します。次に，各自が作成した学習指導案をグループ内で相互に発表した後，意見交換・討論を行い，より良いオリジナル学習指導案の完成に向けて，さらに手を加えていきます。

第11～14回では，各教科別に代表学生による模擬授業を行います。模擬授業者は学習指導案やワークシートなどを準備し全員に配付します。授業の進行，ビデオ撮影等，全て学生が役割分担をして主体的な運営をします。最初に模擬授業者から授業のポイントや工夫した点などを説明した後，授業開始です。模擬授業者以外の学生は生徒役を演じながら授業が展開されます。授業後は，模擬授業者から授業の反省を述べた後，全員で討論・意見交換をします。生徒役の学生は授業観察の視点や授業分析の能力を高める機会にもなります。

第15～18回では、学習指導と車の両輪に例えられる生徒指導について、生徒理解に基づいた生徒指導の在り方、生徒指導の今日的課題を学習します。また、子ども的人権、教師の守秘義務、学校の説明責任等について、実際の事例や法令に基づいてその具体的な内容や取組について理解を深めていきます。

第21・22回では、附属中学校で授業観察を行い、実際の学習指導、生徒の学びの姿に触れます。観察中は授業スケッチを行い、これを手がかりに復元学習指導案を作成します。

第23～26回の授業では、これまで学んできた中学校・高等学校の教科指導を確認した後、教育実習を迎えます。

第27～30回の授業は教育実習の事後指導になります。ここでは、実習で取り組んだ教育実践について各自が自己省察し、相互に意見を交換したり情報を共有したりして、実践的指導力の深化を図ります。

教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）の授業計画（予定）

内 容		形態
3 年 次 後 半	第1・2回 授業実施計画，教育実習の意義・目的・在り方	文系理系合同
	第3・4回 学習指導案の作り方：学習指導案作成の手順と方法	
	第5・6回 映像による授業観察：学習指導案の分析と考察	
	第7・8回 学習指導案演習①：授業設計，指導案構成	
	第9・10回 学習指導案演習②：指導案作成，検討	教科別
	第11・12回 模擬授業演習と討論①	
	第13・14回 模擬授業演習と討論②	
	第15・16回 講話①「生徒指導と子ども理解」	文系理系合同
	第17・18回 講話②「学校における人権教育」	
	第19・20回 授業観察オリエンテーション	
	第21・22回 附属中学校における授業観察	教科別
第23・24回 中学校教科指導		
第25・26回 高等学校教科指導		
4 年 次 前 半	教 育 実 習 ※4年次前半（6月末までに実施）	
	第27・28回 教育実習の反省①：教育実習における共同省察	文系理系合同
	第29・30回 教育実習の反省②：教育実習における共同省察	教科別・全体会

5. 教育実習Ⅳ（中学校）・教育実習Ⅴ（高等学校）

（1）はじめに ー教育実習とは何か

「教育実習」では、大学で学んできた理論や、身につけた知識や技術等を、成長途上にある生徒たちの発達段階や個性に応じて創意工夫しながら教えるとともに、生徒たちの学習活動を支援することが求められます。さらに、実際の授業だけでなく、学級活動（高校では「ホームルーム」）の指導、清掃や給食指導等、学校生活の全てが教育実習です。理論と実践を架橋し、往還させる教育実習を通じて、教師に必要とされる実践的指導力の基礎の形成やその向上に努めましょう。実習生の皆さんが一生懸命に取り組むことによって、その熱意や情熱を感じとった生徒や実習校の先生方は、必ずや皆さんを応援し、助言し、励ましてくださることでしょう。また、時には厳しい指導もあるかもしれませんが、評価を受けてこそ実習生は成長していくことができます。

（2）教育実習の目的と心得

先述のとおり、教育実習の目的は、実践的指導力を育成することにあります。教育実習では、全学教職コア・カリキュラムで学んだ教育理論を実践し、実践を分析し、改善点を見つけ、さらに工夫して実践します。こうした理論と実践との往還による実習体験を通して、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で構成される教育実践力をバランス良く育て、総合的な実践的指導力へと高めていきます。

また、これまでの学ぶ側から、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を喚起し、教育技術を習得するとともに、理論と実践の往還による実践的な取組を通して新たな課題を発見していきます。実践的指導力を身につけるきっかけは、教育実習での課題発見にあるといえます。

①学校現場を知る

地域社会や生徒たちの特性を生かして学校教育が営まれていることを理解する、校務分掌を理解する等。

②教師の仕事を理解する

大変さ、厳しさ、責任の重さ、生徒たちの成長過程に関わることの素晴らしさ、やりがい等。

③生徒たちを理解する

日々刻々と、1時間の授業のなかでも成長する生徒の素晴らしさを実感する、学年やクラス、そして個々の生徒たちの発達段階、興味や関心の対象、何を喜びとしているか、何に悩んだりしているか等に目を向けましょう。生徒たちは言葉や文字で実習生に対する思いを伝えるだけではありません。様々な表情や態度、仕草によって実習生にメッセージを送り続けています。生徒たちと心が通った時の喜びを体験し、大学の授業や書籍では学ぶことのできない生き生きとした学習活動を経験するまたとない機会です。

④実習を通じて自分の研究課題を見つける

実習後、自分にはどのような学習や研究が必要なのか等、自己を見つめ課題を発見し解決していこうとする努力が必要です。

⑤教師としての適正な言動やマナー、態度を身につける

実習生は、現職の先生方から指導を受ける立場であると同時に、生徒たちに対しては教師の立場に立つこととなります。学生の立場では決してありません。

(3) 実習生に対する学校側の期待

教育実習生を受け入れる学校の先生方は、教職を目指す後輩を専門職として育てようという意欲を持って多忙な中で皆さんを受け入れてくださっています。学校現場のこうした期待に応じて、教師や生徒の活動から教職の魅力や生徒への関わり等を積極的に学び取る実習としましょう。

それぞれの学校では、その学校教育目標のもとで育てたい生徒像を描き、その実現に向けて学習指導、生徒指導、学級経営、教育環境の整備等に関する教育活動に日々精力的に取り組んでいます。

教育実習生である皆さんは、学校現場がどんな課題を持ち、どんな取組をしているのかについて肯定的な見方で観察することが大切です。そのためには、学校の取組を他人事のように批評するのではなく、当事者意識を持って取組の意図をきちんと受けとめ、自ら主体的に学ぶ中で具体的に、前向きな取組の工夫を見つけるようにしてください。

(4) 教育実習校における事前打ち合わせと事前指導

教育実習が始まる前に、事前打ち合わせを実習校で行います。3年次に行う学校もありますし、実習開始数日前に行う学校もあります。お世話になる学校については、事前にホームページなどを確認し、学校教育目標や校内研究主題は、最低限把握しておきましょう。また、担当の指導教諭、担当学年・学級、教科の範囲、行事予定等々についての説明が行われます。以下の点に留意し、必要な情報は自ら質問して得るようにしましょう。

- ① 打合せに指定された日時を必ず守ること。遅刻は絶対にしないように。教師としてふさわしい服装、髪型、身だしなみ、言葉遣いに努めること（ピアスやネックレスは厳禁、上履きも自分のものを持って行き、学校の来客用のものを使用しない）。
- ② 実習校のホームページ等で学校の歴史、現状、学校教育目標、校内研究主題等を把握すること。
- ③ 担当学年、担当クラスはもとより、生徒指導上の課題等を把握できるよう努めること。
- ④ 担当する教科について、実習期間中の指導範囲を把握する。
- ⑤ 実習校では独自の学習指導案の書式があり、これに基づいて実習授業を行う場合があります。その場合、書式のサンプルを頂けるようお願いすること。
- ⑥ 担当学級の生徒たちの名簿等を渡される場合があります。その場合は実習前に生徒の名前や顔を覚えるようにしておきましょう。個人情報の保護に充分留意すること（プライバシーへの配慮から、実習生には名簿や顔写真を渡さない学校もあります）。

(5) 教育実習の実施スケジュール及び手続の流れ

教育実習の手続は、3年生の4月からスタートします！

教育実習履修条件

①実習校内諾済み

②教育実習履修資格単位修得済み

③4年次に進級

※教育実習実施年度の4月に上記の条件を満たしていること

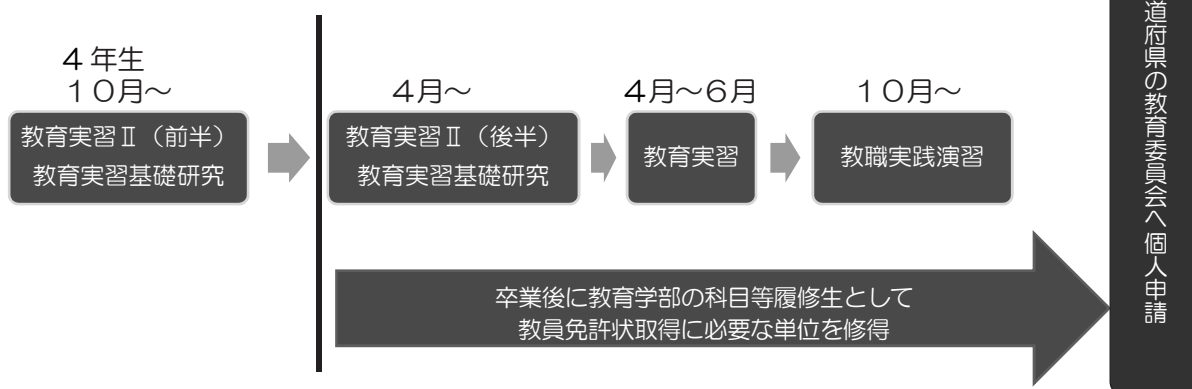
時期等	手続等	詳細
2 年 生	3月 申込揭示確認	教育実習の申込の案内を各自、所属学部で確認する。
3 年 生	4月 月上旬 申込書提出	<p><提出物></p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育実習履修願（教育実習申込） <p>※教育実習履修資格単位を確認し、3年次終了までに取得できるように履修計画すること。（資格単位は50・52頁を参照）</p>
	4月 月下旬 内諾書用紙配付 ・説明	内諾書用紙の配付及び手続の説明
	5月～ 8月 or 9月 内諾活動	個人で実習希望校を訪問のうえ、翌年度の教育実習受入れをお願いし、内諾を得る。原則として教育実習は母校（中学校もしくは高等学校）で行う。 ※内諾活動期間は各学部で異なります。
	9月末 締切 内諾書提出	<p><提出物></p> <ul style="list-style-type: none"> ●内諾書 ●「麻疹の抗体検査結果」もしくは「予防接種の証明書」 <p>※麻疹について…感染拡大予防のために、教育実習生は申込時に麻疹の免疫が確認できる抗体値の検査結果もしくは、ワクチンの予防接種を受けた証明書(母子手帳、予防接種手帳又は医療機関が交付する予防接種済証明書など)の提出が必要です。麻疹を受けていない場合や、抗体値が低い場合は、ワクチンの予防接種を受けてください。</p> <p><確認事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ●保険（「学生教育研究災害障害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険（Aコース）」）の加入状況を確認すること。確認は、学務システムの【住所・電話番号・学研災情報等】でできます。
	10月～ 翌年 7月 教育実習Ⅱ履修	教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）を履修 日程・教室は事前に掲示で確認すること。 ※内諾書提出者については履修登録不要。（大学側で履修登録を行います）

時期等	手続等	詳細
4年生	4月 書類配付・ 手続説明	教育実習関係書類の配付・手続の説明 ＜配付物＞ ●実習校宛依頼文書 ●出勤簿・評価表 など ※学部によって、オリエンテーションを開催する場合があります。各自、所属学部の掲示板を確認すること。
	4月～ 6月末 教育実習	教育実習 中学校免許：3～4週間 高等学校免許：2週間
	7月 事後指導	教育実習事後指導 日時・場所は、教育実習Ⅱにて指示。
	7月末 レポート等 提出	＜提出物＞ ●教育実習記録簿 ●学習指導案 ●総まとめレポート ※所属学部の教務担当窓口へ提出すること。
	3学期 ～ 教職実践演習	「教職実践演習」履修 教育実習修了者でなければ履修できない。 日程・教室は事前に掲示で確認すること。 履修登録不要（教育実習修了者について、事務で履修登録を行う）

教育実習を卒業後に行う場合

何らかの事情で教育実習を卒業後に行う場合は、在学中に所属学部の教務担当窓口にご相談ください。

【例：理・工・農・環境理工学部生が、10月に4年生に進級した場合】



6. 教職実践演習（中・高）

（1）「教職実践演習」とは？

教職実践演習（平成 25 年度から実施）は、教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認することを目的としています。

これは「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」の施行に伴う、4年次に履修する必修科目（2単位）です。

（2）「教職実践演習」の設定の理由

この科目が必修として設定される基となったのは、平成 18 年の中央教育審議会答申です。この答申では、「大学における教員養成」と「開放制教員養成」の原則による現行の教員養成・免許制度が質の高い教員を養成し、我が国の学校教育の普及・充実や社会の発展に貢献してきたことを成果として挙げています。しかし、併せてその課題として、教員免許状が保証する資質能力と、現在の学校教育や社会が教員に求める資質能力との間に乖離が生じてきていることを指摘しています。

（3）教職実践演習の趣旨とねらい

教職実践演習の趣旨は、教職課程の履修を通して培った、教員として最低限必要な資質能力を確実に身につけさせるとともに、取得を希望する教員免許状にふさわしい質を備えたかどうかを確認することにあります。すなわち、この科目は、教職課程の履修を通じたあなた自身の「学びの軌跡の集大成」であるのです。

先の答申では、教員として最低限必要な資質能力の全体に関わる 4 つの事項を次のように挙げています。

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④教科・保育内容等の指導力に関する事項

次に、この科目の趣旨を実現する授業方法として、「教職実践演習」という授業科目名にも表れているように、役割演技（ロールプレイング）やグループ討議、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等の演習形式を採り入れることが適当とされています。この科目に積極的に取り組むことにより、教職課程を履修している学生の皆さん一人一人が、将来教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを自覚し、また、必要に応じて不足している知識や技能を補い定着を図ることにより、教職生活が円滑にスタートできるようになることを期待されているのです。

（4）岡山大学の全学教職実践演習

本学においても、平成 25 年度から教職実践演習がスタートしました。その内容は、本学教職課程のディプロマ・ポリシーと「教職実践ポートフォリオ」における自己評価項目、大学院教育学研究科による研究成果をふまえた構成としています。そして、4年次前半

(1・2学期)に実施した教育実習後の「教職実践ポートフォリオ」に基づき、履修者が教育実践力を構成する4つの力「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」に係る自己課題を確認し、その解決に取り組むことを通して、教員として必要な資質能力について学び、補うことをねらいとして定めています。

開講期・曜日・時限

全学教職実践演習は4年次3・4学期(2単位)火曜1～4時限に実施します。本学の教職実践演習は、その内容を深めるために、4時限続きの授業(240分)として設計しています。全学教職課程を履修する学生は、4年次3・4学期のこの時間に他の授業を入れないようにしてください。

本学の教職実践演習の特徴

①アクティブ・ラーニングの手法に習熟できる

アクティブ・ラーニングとは、教員による一方向的な講義形式とは異なり、学習者の能動的な参加を採り入れた教授法の総称です。「教職実践演習」では、グループワーク、ディスカッション、ディベート、模擬授業等、学習者が能動的に学習に取り組むアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた演習形式を中心としています。独自に開発したワークシートに基づき、授業内容によって少人数での活動や、グループ規模の大きい多人数での演習など、様々なグループサイズの演習を経験できます。このような独自の方法を自ら体験し習熟できることは、この科目の大きな魅力です。

②「総合大学」の利点が生きる

文系と理系の学生がともに講義を受ける機会を設定し、総合大学ならではの利点を活かした授業を展開します。教職生活を間近に控えた4年生にとって、教員を目指す学生同士で意見交換や思考の交流を行える機会は貴重です。なかでも、異教科を専門とする学生の視点から学ぶことは、ともすると教科の専門性にとらわれがちな私たちが、豊かに自分自身を省察する機会を与えてくれることでしょう。

③教職担当教員と教科担当教員の協同の実現

教師教育開発センター専任で教職を担当する教員と、専門学部に籍を置く教科担当の教員が緊密に連携しながら講義の内容を検討し、授業を行う形式を採用しています。センターと学部の垣根を越えた教員間の協同を実現することにより、免許教科の専門性を深めることに対応できるだけでなく、異教科の視点と専門性に学ぶ機会を保障しています。

④学校現場の課題に応える総合科目

教職と教科との実質的な融合を重視した授業内容を構成しており、学校現場の課題に応える総合演習科目となっています。「オリエンテーション」「学習指導力に係る省察」「模擬授業演習」「現代的教育課題に係る省察」「まとめ」で構成しています。内容の詳細については、事前に必ずシラバスで確認してください。

○ 受講者からの声

授業内容	受講者の感想
<p>オリエンテーション</p>	<p>受講生同士でコミュニケーションをとることで、自身の考えを深めることができました。教育実習でうまく力を発揮できなかった部分があったので、学び直しの機会を得ることができました。</p>
<p>学習指導力に係る省察</p> 	<p>実習で使用した指導案をリライトしていく作業の中で、それまで思いつかなかった指導の仕方を知ることができ、「やって終わり」ではなく、「反省・省察」をしたことで、授業づくり考え方や方法が、より確実に身につきました。学習指導要領をもとに「系統性」や「関連性」の視点を得て、学習指導案をリライトすることで、明確な見通しを持った授業計画を立案できました。</p>
<p>模擬授業演習</p> 	<p>模擬授業演習では、異教科を専門とする学生の視点からの指摘も受けることができ、教科の専門性にとらわれがちな部分を解消できました。模擬授業者を担当しましたが、他の模擬授業者の授業構成や工夫と比較することで、よりよい気付きが得られました。ピアレビューでは、授業のポイントを絞って振り返ることができ、積極的な意見交換につながりました。</p>
<p>現代的教育課題に係る省察</p> 	<p>現代の注目すべき課題を体験的に学ぶことができました。教師として教壇に立つ直前に際して、非常に考えさせられる内容でした。ロールプレイでは、特に相手の意見をふまえて自分の主張をする姿勢を学ぶこともでき、いろいろと気付かされることも多く、勉強になりました。事例検討では、対応や倫理的な立場に立つことや、配慮の難しさに改めて気付かされました。</p>
<p>まとめ</p>	<p>実際の教育現場を想定しながら、他の人の意見に触れることができたことや、教育実習を終えた同じ境遇の仲間と課題を共有できたことがよかったです。</p>

「教職実践演習」における到達目標及び目標到達の確認指標例（教諭）と「4つの力」

含めることが必要な事項	到達目標	教育実践力を構成する4つの力	目標到達の確認指標例	「4つの力」の下位項目
①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身につけている。	生徒指導力 マネジメント力	誠実、公平かつ責任感を持って子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができるか。	コミュニケーション力 専門職マネジメント力
	高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職業を果たすことができる。	マネジメント力	教員の使命や職務についての基本的理解に基づき、自発的、積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っているか。	専門職マネジメント力 専門職マネジメント力
	子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。	マネジメント力	子どもの成長や安全、健康管理に常に配慮して、具体的な教育活動を組み立てることができるか。	学級・学年 マネジメント力 学校マネジメント力
	教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。	マネジメント力 コーディネート力	挨拶や服装、言葉遣い、他の職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身につけているか。	セルフマネジメント力 実習生協働力
②社会性や対人関係能力に関する事項	組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。	コーディネート力 マネジメント力	他の教職員の意見やアドバイスを耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの職務を遂行することができるか。	実習生協働力 教職員連携力 学校マネジメント力
	保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。	コーディネート力	学校組織の一員として、独善的にならず、協調性や柔軟性を持って、校務の運営に当たることができるか。 保護者や地域の関係者の意見・要望に耳を傾けるとともに、連携・協力しながら、課題に対処することができるか。	教職員連携力 学校マネジメント力 協力者・連携機関 理解力 保護者・地域連携力
	子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。	生徒指導力	気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができるか。	コミュニケーション力
	子どもの発達や心身の状況に対して、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。	生徒指導力	子どもの声を真摯に受け止め、子どもの健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができるか。 社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や子どもの変化を、進んでとらえようとする姿勢を持っているか。	子ども理解力 生活実態理解力 生活指導力 生活実態理解力
③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。	生徒指導力 マネジメント力	子どもの特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っているか。	生活指導力 学級・学年 マネジメント力
	教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身につけている。	学習指導力	自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができるか。 教科書の内容を十分理解し、教科書を介して分かりやすく学習を組み立てるとともに、子どもからの質問に的確にこたえることができるか。	授業設計力 授業実践力
		学習指導力	板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術を身につけるとともに子どもの反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができるか。	学習状況把握力 授業実践力
子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。	学習指導力	基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示を分かりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができるか。	授業分析・省察力 授業設計力	

中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」より

第Ⅲ部

教職課程履修ガイド

1. 教員免許状取得までのスケジュール（必要な単位の履修を除く）

時 期	手続・イベント等	詳 細
1 年 生	5月 全学教職 オリエンテーション	日時・場所は所属学部に掲示等を確認する。
	7月～ 9月 母校訪問	母校（高等学校）へ1日訪問する。 訪問日は各自母校と調整する。 <small>詳細は14頁を参照</small>
	10月 母校訪問事後指導	日時・場所は全学教職オリエンテーションにて指示する。
	1月 介護等体験事前申込の 掲示確認	★中学校教員免許状取得予定者のみ対象 介護等体験事前申込の締切は2月末まで。 <small>手続等は25頁を参照</small>
2 年 生	4月 介護等体験事前指導	★中学校教員免許状取得予定者のみ対象 介護等体験事前指導Ⅰ・Ⅱ 両方受講が必要。 日程は所属学部に掲示を確認すること。
	6月～ 翌年2月 介護等体験	★中学校教員免許状取得予定者のみ対象 特別支援学校2日間＋社会福祉施設7日間実施
	3月 中等理科指導法クラス分け の掲示確認	★理科の免許状取得予定者のみ対象 クラス分けの日時・場所は教育学部に掲示を確認。
3 年 生	4月 教育実習申込・ 内諾活動説明	教育実習履修願を提出する 学部によっては内諾活動等の説明会が実施される。 各自所属する学部に掲示を確認する。 <small>手続等は32頁を参照</small>
	5月～ 教育実習内諾活動	各自、教育実習希望校へ翌年度の教育実習の受入れをお願いし、内諾を得る。
	9月末 教育実習内諾書の提出締切	内諾書、麻疹の抗体検査結果通知書もしくは予防接種証明書等を提出する。
4 年 生	4月 教育実習関係書類 受け取り・説明	教育実習関係の書類を受け取る。 学部によっては教育実習説明会が実施される。 各自所属する学部に掲示を確認。
	4月～ 6月末 教育実習	中学校教諭一種免許状の取得希望の場合は3～4週間 高等学校教諭一種免許状のみ取得希望の場合は2週間
	10月～ 11月 教員免許状一括申請手続	手続の案内は所属学部に掲示を確認する。 <small>手続等は54頁を参照</small>
	3月 卒業式 教員免許状取得	卒業式当日に配付する。

2. 教員免許状とは

(1) 教員免許制度の概要

教員免許制度を支える組織・法律

大学で教員養成を行う場合、国（文部科学省）、大学、そして教育委員会の三者が関係します。その役割はおおよそ次のとおりとなります。

国（文部科学省）：教員免許状授与に関する法令を制定し、文部科学大臣が大学から申請された課程を認定します。

大学（学部等）：法令に従って教員養成の課程を設置します。このとき個々の学部は、自らの学部で学生に取得させる免許教科・学校種を定め、これに必要な授業科目を開設します。

教育委員会：教員免許状を授与（発行）する主体は都道府県の教育委員会です。在学中に要件を満たした者については、大学から一括して教員免許状の申請を行います。卒業後に要件を満たした者については、各自で申請することになります。なお、教員採用試験を実施する主体も教育委員会です。

教員免許制度を定める主な法律は「教育職員免許法」と「教育職員免許法施行規則」です。

(2) 教員免許状の種類

一般に教員免許状は「免許種」、「学校種（校種）・職種」、「教科」によって分類されています。これを整理すると次のようになります。

免許種

免許状には次のような種類があります。職務上の差異はありませんが、給与・昇進等が異なります。

一種免許状：主に学部学生が取得できる免許状です。法令で定められた教職科目を修得し、学部を卒業（＝学士の学位を取得）することで得られる免許状です。

専修免許状：一種免許状に必要な単位に加え、大学院で専門的な教職科目を修得し、大学院を修了（＝修士の学位を取得）することで得られる免許状です。

二種免許状：通常、短期大学を卒業（準学士を取得）することで得られる免許状です。

学校種（校種）・職種

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭になるには、学校種ごとの教員免許状が必要です。また養護教諭及び栄養教諭は職種に対応した教員免許状が必要です。

中学校と高等学校は教科ごとの免許状に分かれます。皆さんが取得できるのは中学校、高等学校の教員免許状です。学部や学科によって、中学校と高等学校の両方の教員免許状が取得できる場合と、高等学校の教員免許状に限られている場合があります。詳細は「(3) 岡山大学で取得できる教員免許状」(43 頁) で確認してください。

教科

中学校と高等学校教諭の教員免許状は教科による区別があり，所属する学部・学科等によって取得できる教科が定められています。学部・学科の枠を超えた校種・教科の教員免許状の取得はできません。

ただし，岡山大学では，理科に強い小学校・中学校の教員を養成するために，学部から修士課程までの6年間を通じた特別プログラムを開講しています。このプログラムを受講することにより，理工系学部にも所属する学生が，小学校教員免許状を取得することが可能です。詳しくは教師教育開発センター事務室を訪ねてください。

(3) 岡山大学で取得できる教員免許状（年度ごとに異なる可能性もあるので確認してください）

学 部：一種免許状			
学 部	学 科	取得可能な教員免許状	
		学校種	免許教科
文学部	人文学科	中学校	国語, 社会, 英語, フランス語
		高等学校	国語, 地理歴史, 公民, 英語, フランス語
法学部	法学科	高等学校	公民
経済学部	経済学科	高等学校	商業
理学部	数学科	中学校 高等学校	数学
	物理学科	中学校 高等学校	理科
	化学科		
	生物学科		
	地球科学科		
工学部	機械システム系学科	高等学校	工業
	電気通信系学科		情報, 工業
	情報系学科		情報
	化学生命系学科		理科, 工業
環境理工学部	環境数理学科	中学校 高等学校	数学
	環境デザイン工学科	高等学校	数学, 情報
	環境管理工学科	高等学校	理科, 工業
	環境物質工学科		
農学部	総合農業科学科	高等学校	理科, 農業

大学院：専修免許状			
研究科	専 攻	取得可能な教員免許状	
		学校種	免許教科
社会文化科学研究科 博士前期課程	社会文化基礎学専攻	中学校	社会
		高等学校	地理歴史, 公民
	比較社会文化学専攻	中学校	国語, 社会, 英語, フランス語
		高等学校	国語, 地理歴史, 公民, 英語, フランス語
公共政策科学専攻	高等学校	公民	
組織経営専攻	高等学校	商業	
自然科学研究科 博士前期課程	数理物理科学専攻	中学校 高等学校	数学
		中学校 高等学校	理科
	分子科学専攻 生物科学専攻 地球科学専攻	中学校 高等学校	理科
		機械システム工学専攻 電子情報システム工学専攻	高等学校
	環境生命科学 研究科 博士前期課程		高等学校
生命環境学専攻		数学	
資源循環学専攻		理科	
生物資源科学専攻 生物生産科学専攻		理科 農業	

3. 教員免許状取得要件

(1) 全般的事項

教員免許状は、下の表に示すように、「学士の学位を有すること」、及び「必要最低単位数を修得すること」により取得することができます。「必要最低修得単位数」は大きく4つに区分されており、「①文部科学省令で定める科目」、「②教職に関する科目」、「③教科に関する科目」、「④教科又は教職に関する科目」となっています。特に「②教職に関する科目」に該当する授業科目は、「4. 教職科目単位数取得方法」(50頁)で詳しく説明しています。

免許状の種類	基礎資格	必要最低単位数				介護等体験
		① 文部科学省令で定める科目	② 教職に関する科目	③ 教科に関する科目	④ 教科又は教職に関する科目	
中学校教諭一種	学士の学位を有すること	8	31	20 ^{注3}	8	必要
高等学校教諭一種	学士の学位を有すること	8 ^{注1}	25 ^{注2}	20 ^{注3}	16	不要

※1 教育職員免許法では、8単位ですが、平成28年度以降入学生用のカリキュラムでは、法学部(昼間コース)では11単位、法学部(夜間主コース)では10単位、経済学部(夜間主コース)では12単位必要です(平成27年度以前入学生は第2版を参照)。

※2 教育職員免許法では、23単位ですが、岡山大学のカリキュラムでは25単位必要です。なお、その差の2単位は、「④教科又は教職に関する科目」にあてることができます。

※3 取得を希望する免許教科によっては、この表に示している以上の単位数が必要となります。

基礎資格

学士の学位を有すること：所属学部を卒業すると「学士の学位」を取得できます。

必要裁定単位数

① 文部科学省令で定める科目

「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」及び「情報機器の操作」の区分でそれぞれ必要です。授業科目は、教養教育科目として開講されています。(学部・学科によっては、専門教育科目の場合があります。)

② 教職に関する科目(中学校は31単位、高校は25単位です)

授業科目は、教育学部の専門科目として開講されています。詳しい開講曜日・時限や担当教員等は、毎年配付される「教育学部教職科目 開講一覧」で確認します。

③ 教科に関する科目

授業科目は、所属学部の専門教育科目として開講されています。(学部・学科によっては、一部教養教育科目や他の学部で開講されている場合があります。)

④ 教科又は教職に関する科目

必要最低単位数を超えて修得した②教職に関する科目や③教科に関する科目の授業科目が該当します。

介護等体験

中学校教諭の免許状を取得する場合は、上記の必要最低単位数以外に、「介護等体験」を行うことが必要です。高等学校教諭の免許状のみ取得する場合は必要ありません。詳細は先の「第Ⅱ部 3. 介護等体験」(25頁)で確認してください。

(2) 科目区分別チェックリスト

教員免許状を取得するためには、前頁「3. 教員免許状取得要件」の必要単位数を修得しなければなりません。下の表は、教員免許状を取得するために必要な①から④の科目区分ごとの単位数を表しています。科目区分ごとに必要な単位を修得後は、区分欄の□に各自でチェックをして、必要な単位に不足がないかを確認してください。

① 文部科学省令で定める科目

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本国憲法		
<input type="checkbox"/> 体育		
<input type="checkbox"/> 外国語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 情報機器の操作		

② 教職に関する科目

中学校のみ、又は中学校と高等学校の両方の教員免許状を取得する場合

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 教職の意義等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<input type="checkbox"/> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<input type="checkbox"/> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
<input type="checkbox"/> 教育課程の意義及び編成の方法		
<input type="checkbox"/> 各教科の指導法		
<input type="checkbox"/> 道徳の指導法		
<input type="checkbox"/> 特別活動の指導法		
<input type="checkbox"/> 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<input type="checkbox"/> 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育実習		
<input type="checkbox"/> 教職実践演習		

高等学校のみの教員免許状を取得する場合

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 教職の意義等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<input type="checkbox"/> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<input type="checkbox"/> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
<input type="checkbox"/> 教育課程の意義及び編成の方法		
<input type="checkbox"/> 各教科の指導法		
<input type="checkbox"/> 特別活動の指導法		
<input type="checkbox"/> 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<input type="checkbox"/> 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育実習		
<input type="checkbox"/> 教職実践演習		

③ 教科に関する科目

中学校 国語

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<input type="checkbox"/> 国文学（国文学史を含む。）		
<input type="checkbox"/> 漢文学		
<input type="checkbox"/> 書道（書写を中心とする。）		

高等学校 国語

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<input type="checkbox"/> 国文学（国文学史を含む。）		
<input type="checkbox"/> 漢文学		

中学校 社会

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本史及び外国史		
<input type="checkbox"/> 地理学（地誌を含む。）		
<input type="checkbox"/> 「法律学，政治学」		
<input type="checkbox"/> 「社会学，経済学」		
<input type="checkbox"/> 「哲学，倫理学，宗教学」		

高等学校 地理歴史

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本史		
<input type="checkbox"/> 外国史		
<input type="checkbox"/> 人文地理学及び自然地理学		
<input type="checkbox"/> 地誌		

高等学校 公民

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」		
<input type="checkbox"/> 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」		
<input type="checkbox"/> 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」		

中学校 数学		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 代数学		
<input type="checkbox"/> 幾何学		
<input type="checkbox"/> 解析学		
<input type="checkbox"/> 「確率論, 統計学」		
<input type="checkbox"/> コンピュータ		

高等学校 数学		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 代数学		
<input type="checkbox"/> 幾何学		
<input type="checkbox"/> 解析学		
<input type="checkbox"/> 「確率論, 統計学」		
<input type="checkbox"/> コンピュータ		

中学校 理科		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 物理学		
<input type="checkbox"/> 物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 化学		
<input type="checkbox"/> 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 生物学		
<input type="checkbox"/> 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 地学		
<input type="checkbox"/> 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)		

高等学校 理科		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 物理学		
<input type="checkbox"/> 化学		
<input type="checkbox"/> 生物学		
<input type="checkbox"/> 地学		
<input type="checkbox"/> 「物理学実験 (コンピュータ活用を含む。), 化学実験 (コンピュータ活用を含む。), 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。), 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)」		

中学校 英語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 英語学		
<input type="checkbox"/> 英米文学		
<input type="checkbox"/> 英語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 英語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 英語学		
<input type="checkbox"/> 英米文学		
<input type="checkbox"/> 英語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

中学校 フランス語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 仏語学		
<input type="checkbox"/> 仏文学		
<input type="checkbox"/> 仏語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 フランス語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 仏語学		
<input type="checkbox"/> 仏文学		
<input type="checkbox"/> 仏語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 情報		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 情報社会及び情報倫理		
<input type="checkbox"/> コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報システム（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報と職業		

高等学校 農業		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 農業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

高等学校 工業		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 工業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

※工業の教科については、「教職に関する科目」の単位数の全部又は一部の単位の修得は、同数の「教科に関する科目」の単位の修得をもって替えることができます。

高等学校 商業		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 商業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

④ 教科又は教職に関する科目

中学校		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教科に関する科目」		
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教職に関する科目」		

高等学校		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教科に関する科目」		
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教職に関する科目」		

4. 教職科目単位修得方法

(1) 全学部共通の履修方法

「② 教職に関する科目」の履修方法<中学校のみ、又は中学校と高等学校の両方の免許状を取得する場合>

科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位	履修		必要修得単位数		
				年次	方法	中免	教育実習 履修資格	
科目等に関する 教職の意義 に関する	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 	教職論C(1)	1	2~	●必修	2	2	
		教職論C(2)	1					
教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 	教育学概説C(1)	1	1~	●必修	2	2	
		教育学概説C(2)	1					
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 	学校教育心理学C(1)	1	1~	●必修	2		
		学校教育心理学C(2)	1					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 	教育の制度と社会C(1)	1	2~	●必修	2			
	教育の制度と社会C(2)	1						
教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の指導法 ・教育課程の意義及び編成の方法 ・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 	(免許ごとの教科の指導法)	(*1)	(*1)	●必修	2 (*1)	2	
		中等教育カリキュラム論C(1)	1	2~	●必修	2		
		中等教育カリキュラム論C(2)	1					
		道徳教育論C(1)	1	3~	●必修	2		
		道徳教育論C(2)	1					
		特別活動論C(1)	1	1~	●必修	2		
		特別活動論C(2)	1					
		教育の方法と技術C(1)	1	2~	●必修	2		
		教育の方法と技術C(2)	1					
		現代教育方法学B(1)	1	2~	◎選択 必修	2		
現代教育方法学B(2)	1							
学習意欲向上の原理と方法B(1)	1	2~	◎選択 必修	2				
学習意欲向上の原理と方法B(2)	1							
情報メディアの授業活用B(1)	1	4	◎選択 必修	2				
情報メディアの授業活用B(2)	1							
生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 	生徒指導論ⅠC(1)	1	2~	●必修	2	4	
		生徒指導論ⅠC(2)	1					
		教育相談論B(1)	1	3~	◎選択 必修	2		
		教育相談論B(2)	1					
生徒指導論ⅡC(1)	1	2~	◎選択 必修	2				
生徒指導論ⅡC(2)	1							
教育実習		教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）	1	3~	●必修	1	/	
		教育実習Ⅳ（中学校）	4	4	●必修	4		
教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	4	●必修	2		
必要合計単位						31	12	4
							16	

(*1) 各教科により履修年次・単位数が異なります。また、複数教科を取得する場合は免許教科ごとに単位を履修すること。

履修年次について

- 履修年次とは、履修が開始できる年次のことです。なお、各自の年次より低い履修年次の授業科目は履修できません。

「各教科の指導法」の授業科目について

- 該当授業科目は、毎年、別途配付される「教育学部教職科目 開講一覧」を参照してください。
- 複数の教科の教員免許状を取得する場合は、教科ごとに「教科の指導法」の単位を修得してください。
- 授業科目により履修年次が異なります。

教職実践演習（中・高）の履修資格について

- 教職実践演習（中・高）の履修資格は、教育実習Ⅳ（中学校）を履修済、又は単位を修得済であることです。

全学教職コア・カリキュラムには「系統性」があります

表の「該当授業科目」のうち、網掛けで示した「全学教職コア・カリキュラム」の授業科目には系統性があります。たとえば「教職論C(1)・(2)(2年次)」を履修するには、1年次の「全学教職オリエンテーション」に出席し、「母校訪問」を終えていなければなりません。また「教職論C(1)・(2)」の単位を修得していなければ、「教育実習Ⅱ(教育実習基礎研究)」を履修することはできません。このような履修要件に注意し、計画的な受講を心がけましょう。

＜高等学校のみの教員免許状を取得する場合＞

科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位	履修		必要修得単位数		
				年次	方法	高免	教育実習履修資格	
教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> 教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等 	教職論C(1)	1	2～	●必修	2	2	
		教職論C(2)	1					
教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 	教育学概説C(1)	1	1～	●必修	2	2	
		教育学概説C(2)	1					
	<ul style="list-style-type: none"> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 	学校教育心理学C(1)	1	1～	●必修	2		
		学校教育心理学C(2)	1					
<ul style="list-style-type: none"> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 	教育の制度と社会C(1)	1	2～	●必修	2			
	教育の制度と社会C(2)	1						
教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の指導法 	（免許ごとの教科の指導法）	(*1)	(*1)	●必修	2(*1)	2	
		中等教育カリキュラム論C(1)	1	2～	●必修	2		
	中等教育カリキュラム論C(2)	1						
	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動の指導法 	特別活動論C(1)	1	1～	●必修	2	2	
		特別活動論C(2)	1					
	<ul style="list-style-type: none"> 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 	教育の方法と技術C(1)	1	2～	●必修	2		
		教育の方法と技術C(2)	1					
		現代教育方法学B(1)	1	2～	○選択			
		現代教育方法学B(2)	1					
		学習意欲向上の原理と方法B(1)	1	2～				
学習意欲向上の原理と方法B(2)		1						
情報メディアの授業活用B(1)	1	4						
情報メディアの授業活用B(2)	1							
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 	生徒指導論ⅠC(1)	1	2～	●必修	2	4	
		生徒指導論ⅠC(2)	1					
	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の理論及び方法 	教育相談論B(1)	1	3～	◎選択必修	2		
		教育相談論B(2)	1					
教育実習		教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）	1	3～	●必修	1	/	
		教育実習Ⅴ（高等学校）	2	4	●必修	2		
教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	4	●必修	2		
必要合計単位						25	12	4
							16	

(*1) 各教科により履修年次・単位数が異なります。また、複数教科を取得する場合は免許教科ごとに単位を履修すること。

履修年次について

- 履修年次とは、履修が開始できる年次のことです。なお、各自の年次より低い履修年次の授業科目は履修できます。

「各教科の指導法」の授業科目について

- 該当授業科目は、別に示す「教育学部教職科目 開講一覧」を参照してください。
- 複数の教科の教員免許状を取得する場合は、教科ごとに「教科の指導法」の単位を修得してください。
- 授業科目により履修年次が異なります。

教職実践演習（中・高）の履修資格について

- 教職実践演習（中・高）の履修資格は、教育実習Ⅴ（高等学校）を履修済、又は単位を修得済であることです。

全学教職コア・カリキュラムには「系統性」があります

表の「該当授業科目」のうち、網掛けで示した「全学教職コア・カリキュラム」の授業科目には系統性があります。たとえば「教職論C（1）・（2）（2年次）」を履修するには、1年次の「全学教職オリエンテーション」に出席し、「母校訪問」を終えていなければなりません。また「教職論C（1）・（2）」の単位を修得していなければ、「教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）」を履修することはできません。このような履修要件に注意し、計画的な受講を心がけましょう。

（2）学部別の履修方法

① 文部科学省令で定める科目

区 分	必 要 単位数	該当授業科目
日本国憲法	2 ^{注1}	該当する授業科目は、所属学部の「学生便覧」を参照のこと。
体育	2 ^{注2}	
外国語コミュニケーション	2 ^{注3}	
情報機器の操作	2	

注1 教育職員免許法では2単位ですが、平成28年度以降入学の法学部（昼間コース）は5単位必要です。

注2 教育職員免許法では2単位ですが、平成28年度以降入学の法学部及び経済学部（夜間主コース）については4単位必要です。

注3 教育職員免許法では2単位ですが、平成28年度以降入学の経済学部（夜間主コース）については4単位必要です。

③教科に関する科目

区 分	必 要 単位数	該当授業科目
教科に関する科目	20 ^{注4}	該当する授業科目は、所属学部の「学生便覧」を参照のこと。

注4 取得を希望する免許教科によっては、この表に示している以上の単位数が必要となります。

5. 教員免許状の申請方法

教員免許状の交付を受けるためには、教員免許状の授与権者である都道府県の教育委員会へ「一括申請」又は「個人申請」により必要な書類を提出しなければなりません。

一括申請とは

- ・一括申請とは、申請年度の3月に卒業予定の学生を対象として、学部在学中に本学から岡山県教育委員会へ教員免許状申請書類を一括して提出する方法です。
- ・以下のスケジュールに従い、一括申請することにより、卒業と同時に教員免許状を取得することができます。

時期等	手続等	詳細
4年生 4月・ 10月	必要な単位の 確認	卒業に必要な単位及び教員免許取得に必要な単位が揃うか各自確認する。 中学校教員免許状取得予定者は「介護等体験の証明書」があるか確認する。
10月	申請についての 掲示確認	所属学部の掲示板にて、教員免許状申請書類の受領・提出方法について確認する。
10月 下旬～	申請書類受領	所属学部にて教員免許状申請書類を受け取る。
10月 下旬～ 11月 月上旬	申請書類提出	<p><提出物></p> <ul style="list-style-type: none"> ●教員免許状申請書類 ●岡山県収入証紙 3,710円（金額は変更する場合あり） ●「介護等体験の証明書」（中学校教員免許状取得予定者のみ） <p>※岡山県収入証紙は岡大生協（ピーチユニオン）で購入できます。 ※提出期限に間に合わなかった場合、卒業式当日に教員免許状を受け取ることができません。個人で教育委員会に申請してください。</p>
2月 下旬	必要な単位の 最終確認	卒業に必要な単位及び教員免許取得に必要な単位が揃っているか、各自で最終確認する。
卒業式 当日	教員免許状 受領	卒業式当日、所属学部で教員免許状を受け取る。

個人申請について

- ・個人申請とは、卒業後に各個人が都道府県の教育委員会へ申請する方法です。
- ・一括申請の手続に間に合わなかった場合や、卒業後に教員免許状取得に必要な単位を揃えた場合は、個人申請することにより教員免許状を取得することができます。また、9月卒業の場合も、個人申請となります。
- ・個人申請に必要な書類や申請方法は、教育委員会によって異なります。詳しくは、申請する都道府県の教育委員会へ問い合わせてください。

6. 学部別問い合わせ窓口

教員免許状取得に関する問い合わせ

学部	担当窓口		場所	電話
文学部	社会文化科学研究科等 事務	文学部教務担当	文学部・法学部・経済学 部1号館1階	086-251-7366
法学部		法学部教務担当		086-251-7363
経済学部		経済学部教務担当		086-251-7365
理学部	自然系研究科等理学部 事務	教務学生担当	理学部1号館1階	086-251-8500
工学部	自然系研究科等学務課	工学部担当	工学部1号館1階	086-251-8018
環境理工学部	自然系研究科等環境理 工学部事務室	教務担当	環境理工学部棟2階	086-251-8816
農学部	自然系研究科等農学部 事務	教務学生担当	農学部1号館1階	086-251-8287
マッチングプログラムコース	自然系研究科等理学部 事務	教務学生担当	理学部1号館1階	086-251-7763

教育学部が開講する教職科目に関する問い合わせ

教育学系事務部教務学生グループ

場所 教育学部講義棟 1階

電話 086-251-7598, 7599

7. 学部卒業後の教職課程履修ガイド

(1) 専修免許状の取得

- ・大学院の博士前期課程（修士課程）に進学すると、専修免許状を取得することができません。
- ・専修免許状の取得要件は①「修士の学位を有すること」②「取得しようとする専修免許状と同じ学校種・教科の一種免許状を取得（所要資格を得ている場合を含む）していること」③「専修免許状取得に必要な授業科目の単位を24単位以上修得していること」です。
- ・取得できる専修免許状の種類や専修免許状取得のための授業科目は、所属する研究科によって異なります。詳しくは所属する研究科の学生便覧を参照してください。
- ・専修免許状を取得する場合も一括申請（「教員免許状の申請方法」54頁を参照）の対象となります。なお、一括申請のスケジュールは、学部と同様です。

(2) 一種免許状の取得

- ・学部卒業時に単位不足で一種免許状を取得できなかった場合は、卒業後に科目等履修制度を活用して必要な単位を修得した後、個人申請して教員免許状を取得できます。
- ・このうち、本学の教育学研究科、もしくは本学の他の研究科に在籍しながら、本学教育学部の科目等履修生となって教育実習や教職実践演習を履修しようとする場合は、次のとおり対応することになります。

①本学教育学研究科の学生（本学教育学部卒業生含む）の場合は、

教育実習Ⅱ（教育学部開講）→附属校実習→教職実践演習（教育学部開講のもの）

②本学他研究科の学生（本学教育学部卒業生除く）の場合は、

教育実習Ⅱ（教師教育開発センター開講）→母校実習→教職実践演習（教師教育開発センター開講）

現在の所属・出身大学と教育実習校

現在の所属		出身大学		他大学 卒
		岡山大学 卒		
		教育学部 卒	他学部 卒	
岡山大学	教育学研究科 在籍	附属校実習	附属校実習	附属校実習
	他の研究科在籍	附属校実習	母校実習	母校実習
上記以外の一般の科目等履修生		附属校実習 (本学教育学研究科修了生含む)	母校実習 (本学他研究科修了生含む)	履修不可

現在の所属・出身大学と、履修する教職実践演習の開講主体

現在の所属		出身大学		他大学 卒
		岡山大学 卒		
		教育学部 卒	他学部 卒	
岡山大学	教育学研究科 在籍	教育学部開講	教育学部開講	教育学部開講
	他の研究科在籍	教育学部開講	センター開講	センター開講
上記以外の一般の科目等履修生		教育学部開講 (本学教育学研究科修了生含む)	センター開講 (本学他研究科修了生含む)	履修不可

- ・科目等履修制度は、岡山大学の各学部で実施しています。また、他大学でも実施していることがあります。詳しくは、各学部の教務担当係、もしくは科目等履修を希望する大学へ問い合わせてください。

(3) 教職大学院（大学院教育学研究科教職実践専攻）への進学

岡山大学大学院教育学研究科は、大学新卒者と現職教員を対象に、高度な教育実践力の育成を目指す「教職大学院（教職実践専攻）」を設置しています。教育学部以外からの進学者も多く、修了生の中には、中学校や高等学校の新任教師（正規採用）として巣立った先輩もいます。

教職課程を履修している皆さんには、自らの専門学部につながる研究科（大学院）へと進学し、そこで専修免許状を取得するという選択もあります。しかし、もうひとつの進路として、本学の教職大学院へ進学することも、魅力的な進路かもしれません。自らの学部で教科に関する専門知識を深めれば深めるほど、これを子どもたちに伝えるための、より高度な教育実践力を磨くことに取り組みたいと思うことでしょう。

ここで言う「高度な教育実践力」とは、学級経営、カリキュラム、学習指導、生活指導、生徒指導、地域連携、子ども理解、保護者対応等、現実の学校教育現場で求められる実践的力量的ことです。このような力量を培うために、教職大学院では10単位に及ぶ学校における実習に取り組むことができます。実際の教育現場に入りながら、学校の現実の課題に学び、より高度な実践的指導力を培うことが可能です。

なお、大学院教育学研究科には、いわゆる教職大学院（教職実践専攻）の他に、「学校教育学専攻」「発達支援学専攻」「教科教育学専攻」「教育臨床心理学専攻」という4つの専攻があり、教科教育や教育実践の理論に強く、高度な研究能力を学校現場で生かせる人材を育てています。

8. 教職課程の授業科目を登録する際に確認すべき事項

(1) 教職課程の授業科目を履修登録する前に確認すべき事項

以下の項目は、教職課程の授業科目を履修登録する際に確認すべき一般的な事項をリストアップしています。年度や学期によって状況が変動する場合があります。必要に応じて所属学部の学生便覧を確認したり、教職課程に係る掲示に常に注意を払ったりするなどして、漏れの無いようにしてください。

登録前の確認

- 自分の学科・専攻等で取得可能な教員免許状を確認する。
- 教員免許状の取得に必要な授業科目のうち、自分の学部・学科等で受講する授業科目を確認する。
- 教員免許状の取得に必要な授業科目のうち、自分の学部・学科等以外で受講する授業科目を確認する。
- 学期ごとの時間割を作成し、以下の点を確認する。
 - ①その科目に履修要件はあるか？ またその要件を満たしているか？
 - ②無理のない履修が組めているか（教室移動の時間は十分に確保できているか）？
 - ③同一コマでの授業科目の重複は無いか？
 - ④学部の卒業要件を満たす履修が組めているか？
 - ⑤教員免許状の取得が可能な履修が組めているか？

科目の決定に際して

- 配当年次を間違えていないか？
- 教養教育科目や専門教育科目の必修科目と、教職課程の必修科目との優先順位をつけているか？
- 重複した科目を次年度以降の履修に回す場合、時間割を組むことが可能か？
- 介護等体験の実施時期を考慮しながら、履修計画を立てているか？
- 4年次前半（1・2学期）の教育実習の履修要件となっている科目を優先して履修しているか？
- 授業担当者、教室、開講の曜日時限等を把握しているか？
- 当該科目のシラバスを確認しているか？
- 年間の履修上限単位数を超過していないか？

科目の登録と確認

- 自分が選択した教職科目が、卒業要件の単位として算入可能かどうかを確認する。
- 間違いなく履修登録ができているかどうかを確認する。

(2) 教職課程授業科目履修計画表

『教職課程履修ハンドブック』,ならびに毎年度配付される時間割表に基づいて履修計画を立てましょう。①教員免許状の取得に係って卒業までに必要な単位を揃えられる計画となっているか? ②教育実習履修資格(16単位)に必要な授業科目の単位を修得できる計画となっているか? ③卒業までに介護等体験の履修を組んでいるか?(中学校免許状取得希望者のみ必須)等を確認しましょう。以下の授業計画表に,所属する学部/研究科で履修する授業科目も記載すると,科目の重複等をチェックするのにも役立ちます。

平成____年度 1年次(1・2学期)

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中講義等					

平成____年度 1年次(3・4学期)

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中講義等					

※教職課程の履修に支障を来す授業科目の重複があれば,その組み合わせを下表に記入しましょう。

開講期	曜日	時限	専攻等の科目名 (必修科目は□にチェックを入れる)	教職課程の授業科目名
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	

平成____年度 2年次（1・2学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

平成____年度 2年次（3・4学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

※教職課程の履修に支障を来す授業科目の重複があれば、その組み合わせを下表に記入しましょう。

開講期	曜日	時限	専攻等の科目名 (必修科目は□にチェックを入れる)	教職課程の授業科目名
			□	
			□	
			□	

平成____年度 3年次（1・2学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

平成____年度 3年次（3・4学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

※教職課程の履修に支障を来す授業科目の重複があれば、その組み合わせを下表に記入しましょう。

開講期	曜日	時限	専攻等の科目名 (必修科目は□にチェックを入れる)	教職課程の授業科目名
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	

平成____年度 4年次（1・2学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

平成____年度 4年次（3・4学期）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
集中 講義等					

※教職課程の履修に支障を来す授業科目の重複があれば、その組み合わせを下表に記入しましょう。

開講期	曜日	時限	専攻等の科目名 (必修科目は□にチェックを入れる)	教職課程の授業科目名
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	

第Ⅳ部

さらに自分を高めるために

1. 「教職相談室」を大いに利用しよう

「教職相談室」は、教職や教育行政職を経験した2名の専任教員と2名の兼任教員を中心に運営しており、教職に関する様々な情報の提供をしたり、教職についてのあらゆる相談に応じたりしています。また、「教師力養成講座」を開講し、学校現場や教育行政の現場で活躍されている先輩の熱い思いを後輩である皆さんに伝える活動も行っています。

教職相談室は、教職を目指している学生さんを応援するだけでなく、教職についての情報を知りたい人や教職に就こうか迷っている人に対しても支援しています。したがって、3年生や大学院生だけでなく、1年生や2年生の人にも大いに利用してほしいと思っています。

(1) 教職についてもっと知ろう

現在、新聞やテレビなどで報道されている学校現場の情報は、教職に対してマイナスのイメージを与えるものが多いように思われます。その情報だけで教職に就くかどうかを判断してしまうと、教員になる人がいなくなってしまうのではないかと心配してしまうほどです。しかし、実際の学校現場は、先生方が子どもたちの幸せのために、力を合わせて、喜びや生きがいを感じながら地道な仕事を続けておられます。にもかかわらず、そのような先生方の前向きな取組の様子やその成果、そして、そのことによって得られるやりがいなどについての情報はほとんど知らされることはありません。

教職相談室の教員は、長年にわたり教育現場で仕事をしてきました。その間には皆さんが教育実習で行く岡山大学教育学部の附属学校園や岡山県・市の教育行政を担っている教育委員会での勤務も経験しています。これらの経験を踏まえて、教育現場の正確な情報を皆さんにお伝えします。

教員採用試験を受けようと思っている人だけでなく、受けようかどうか迷っている人にも大いに教職相談室を利用してほしいと思います。そして、マスコミなどで知らされる情報だけで判断するのではなく、多面的な情報を知ったうえで、教職を目指すかどうかを決めてほしいと思います。



(2) 教職相談室を利用しよう

教員採用試験を受けようと思っている人に対しては、筆記試験、小論文、面接、集団討論、集団活動、模擬授業などの受験対策指導を行っています。

教職相談室利用者の教員採用試験の合否と利用回数の関係を平成27年度に受験した者のデータから調べてみると、採用試験に合格した人の平均利用回数は22.3回でした。それに対して、1次試験には合格したが2次試験では不合格だった人の平均利用回数が14.7回、1次試験の段階で不合格だった人の平均利用回数が6.5回でした。このように、教職相談室を利用した回数が多い人ほど合格率が高くなっています。また、教職相談室を早くから利用すればするほど、合格率が高くなるということも分かってきました。3年生の12

月に教職ガイダンス（教育学部主催）が開催されますが、それを機会に一度教職相談室のドアをノックしてみましょう。12月までに教職相談室を利用し始めた人の合格率は、平成26年度のデータでは80%を大きく超えています。

さらに、教職相談室をたびたび利用することのメリットとして、教員採用試験をいっしょに受験する仲間ができるということがあります。受験勉強は孤独で忍耐を要する作業ですが、仲間がいることで支え合い助け合っっていっしょに頑張ることができます。

（3）「教師力養成講座」で実践力を身につけよう

教職課程を履修している学生や新採用教員として赴任した卒業生の多くが、いじめ、不登校、学級崩壊、保護者対応などの学校現場の課題に対して、自分の指導力の未熟さを感じて不安を抱えたり困惑したりしているということが分かりました。そこで、皆さんの不安を解消し、課題に対して前向きに取り組める自信をつけてもらうために、「教師力養成講座」を開設しています。年に6～7回、学校や教育行政の現場で活躍されている先輩方をお招きし、学校現場が直面している様々な教育課題とそれに対する取組について熱い思いを語っていただいています。その後、学部や専攻の異なる学生の間で討論を重ねて考えを深め合い、互いの意見を発表し合います。最後にまた、学生の発表を踏まえて講師の先生から適切な指導や助言をいただくことで、問題の本質とその対応方法について理解を深めるとともに、教職に向けての意欲や教師としての力量を高めることができます。



昨年度までに開催したテーマは下記のとおりです。

- 「教師力をつけよう」「キーワードをもとに教師の心得を考える」「教師を目指す皆さんに伝えたいこと」「体罰を考える」「多くの教師は教師になって揺らぐ」
- 「学校力の向上について」「学校における評価について」
- 「学級づくり」「学級びらき」「子どもにとって魅力的な学級をどう創るか」
- 「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」「生徒指導」「子どもたちの生活とケータイの問題」「子どもの特性を理解した生徒指導」「いじめ・不登校を考える」「子どもの問題行動にどう対応すればよいのか」「子どもの何を褒め、何を叱らなければならないか」
- 「道徳教育について」「人権教育」「学校における食育推進」「情報教育」「キャリア教育」「伝統文化と武道」「NIEの取組」「外国語活動」「外国語教育」「理数教育の充実」「小中高等学校にけるキャリア教育」
- 「伝え合う力の育成」「授業で学校を変える」「国語教育における協同学習」「子どもにとって魅力的な授業をどう創るか」
- 「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかわるか」「どの子どもも参加でき、どの子どもわかる授業（特別支援教育の視点）」
- 「保護者・地域との連携」「保護者のクレームを考える」

これまでの講座内容は全てDVDに記録しています。それらを教職相談室で視聴すること

2. スクールボランティアビューローを活用しよう

「スクールボランティア」とは何ですか？

学校園や教育施設等で大学生が子どもたちや教師と関わり合いながら支援を行うボランティア活動を総称して、岡山大学では「スクールボランティア」と呼んでおり、以下のよう
に定義しています。

1. 子ども（幼児，児童，生徒）たちとの直接的な関わりを通して，子どもたち一人ひとりの教育（学校教育，家庭教育，社会教育を含む）に資するボランティア活動を指し，営利を主たる目的としていないもの
2. その他，学校園現場における校務遂行上必要な支援又は補助

具体的にどのような活動がありますか？

ボランティア活動の内容は実に様々です。近年ニーズが高まっている特別支援の必要な児童生徒への学習や生活の支援や，学力向上を目指した放課後や土曜日の学習支援のほかにも，授業中に理解度を確認しながらの児童生徒への個別サポートや外国人幼児児童生徒への言語サポート，保健室での事務処理や救急処置の補助といった子どもたちへの直接的な支援活動があります。また，実際には目にすることはほとんどないと思いますが，教師が学校園を運営していくために日常的に実施している植物への水やりや草抜き，清掃活動や本棚の整理，登下校時の挨拶運動や見守り活動など，教育には一見関係なさそうですが，子どもたちが学校園で生活していくために必要な業務の支援や補助といった間接的な支援活動があります。

スクールボランティアをする意義は何ですか？

様々なボランティア活動がある中で，スクールボランティアだけが他を抜いて素晴らしいということは決してありません。学生の中にボランティア活動など課外活動に積極的に取り組むことは，大学の授業だけでは学ぶことができない多くの経験をすることに繋がります。そのひとつとしてスクールボランティアがあるのです。

では，スクールボランティアをする意義は何か。簡単に言ってしまうと，「学校現場の日常を体験する良い機会であるとともに，子どもの実態や変化，指導方法や支援の仕方，子どもとの関わり方を学ぶことができる」ことです。これは他の活動では得ることができない貴重な経験です。

スクールボランティアと教育実習の違いは何ですか？

教職課程を履修している学生は，介護等体験や教育実習などカリキュラムとして学校現場を体験する機会があります。「授業で学校現場に行く機会があるのに，ボランティア活動までする必要はあるの？」と疑問を感じられる学生もいるのではないかと思います。しかし，スクールボランティアと教育実習は似ているようで異なる点もあります。例えば，その違いとして，以下のようなものが考えられます。

	スクールボランティア	教育実習
単位	無	有
学生の姿勢	自ら行動することが必要	免許取得上必須のため、行っている
日程・期間	学校園と相談のうえ決定（日間、週間、月間、年間等）	定められた日程・期間
子どもの変化	長期的に関わるにより捉えやすい	短期間のため捉えにくい

教育実習は教師になるために必要な指導を受ける大切な機会です。スクールボランティアはあくまでもボランティア活動ですので、教師になるためだけに役立つものではありません。学生の主体性や行動力などが必要ですし、継続して関わることで子どもたちや教師との人間関係を構築していくこともできるのです。

ボランティア活動に参加する前に知っておいた方がよいことはありますか？

ボランティア活動をするためには、「教育に関わること」の特性を理解しておく必要があります。例えば、活動上知り得た情報を他人に話さない（守秘義務）、学校の先生方と緊密な連携を取る（報告・連絡・相談）、学校教育にふさわしい言動・服装（子どもにとっての良きモデル）などです。こうした意識を持つことも、スクールボランティアを实践するうえで大切なことです。

どうやってボランティア活動を始めたらよいのですか？

岡山大学には教師教育開発センター内に「スクールボランティアビューロー」という学生や学校園等のスクールボランティアに関する総合支援窓口があります。ボランティア活動は、活動場所によって申し込み方法や登録手続が異なっており、事前の研修が必要な場合もあります。ビューローでは教育委員会と連携し、登録手続の案内、学校園等からの活動依頼情報の収集、学生への情報提供を行い、学生の要望に応じてマッチング支援（学校園の依頼内容と学生の活動希望を照合すること）も行っています。まずは、気軽にスクールボランティアビューローの扉をノックして、活動を始めたいと伝えてください。あなたのやる気を応援します。

《岡山大学 教師教育開発センター スクールボランティアビューロー》

- 場 所 教育学部本館2階 201室
- 受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- 連絡先 086-251-7728 cted@okayama-u.ac.jp

★★★ネットで簡単！スクールボランティア支援システムへもご登録ください★★★

<https://valeo.agora.okayama-u.ac.jp/>

3. 岡山大学 教師教育開発センター ホームページについて

教師教育開発センターホームページでは、全学教職課程、スクールボランティア、教職相談室、教師力養成講座、CST 養成プログラム等に関する最新情報を提供しています。

ホームページへアクセスする

岡山大学公式ホームページトップの「病院・附属施設」を選択し、「センター」の中から「教師教育開発センター」を選択してください。



【パソコン】



【スマートフォン】

ホームページで様々な情報を閲覧する

【概要・活動紹介】

センターの概要や活動ブログ・広報誌（CTED ニュースレター）等を掲載しています。

【全学教職課程】

全学教職課程の紹介と教職課程履修の手引き（教職課程履修ハンドブック）等を掲載しています。

【スクールボランティア】

学校園での教育支援ボランティアに関する情報を掲載しています。

【教職相談室】

教員採用試験受験のための支援活動を行っている教職相談室の情報を掲載しています。

【教師力養成講座】

学生を対象とした教師力育成のための講座情報を掲載しています。

Twitterでセンターの情報を取得する

Twitterでも情報を随時配信しています。→ https://twitter.com/okayama_unicted

4. 教職に就いた先輩からのメッセージ

山橋 恵美子 文学部人文学科 平成27年度卒業 島根県中学校(国語)合格

高校2年生の秋、当時中学生だった後輩が、事情により希望する進路を諦めざるをえなくなったことで、私は子どもの人生に関わる教員という仕事に興味を持ち始めました。教員を目指し教職課程を取り始めた1回生の頃、文学部の授業と両立しながら免許を取得できるのか、教員になれるのか、不安を抱えていたことを思い出します。

しかし、最後までやり抜くことが出来たのには、いくつか理由があるように感じます。中でも一番伝えたいのは、自分なりの経験を持たたからだということです。私は大学に入り、児童相談所で働く機会をいただきました。その中では、不安や苦しみに気付いてもらえず苦しんでいる子どもが多くいることを知りました。様々な状況に置かれた子どもと触れ合う中で、学校現場だけでは分からない事実を見たり、子どもの気持ちを考えたりしました。この経験を生かして、生徒をしっかりと見つめられる教員になりたいと思うようになり、モチベーションを保てたのではないかと感じます。ボランティアに参加したり、部活動に一生懸命取り組んだり、自信になるものは人それぞれだと思います。皆さんには、自分なりの強みを見つけて、夢に向かって頑張っていってほしいです。

また、教育学部に比べて、教育に関する知識や情報に触れる機会が少なく不安だと感じている方もいるかと思います。そのような方は、セミナーに参加したり、教職相談室へ行ったり、まずは身近なものを積極的に利用したらいいと思います。教職相談室では、様々な情報を教えてもらえるだけでなく、悩みなどを親身に聞いて丁寧にアドバイスをしてもらえ、その中で、自分がどんな教員になりたいのか、ということも明確にしていけたように、私は感じています。

最後に、教職課程で経験することは、教員になるためだけに活かされるのではなく、これからの人生に活かされる、価値あるものになると思います。心強い教職仲間の存在や、教育実習の経験など。後輩の皆さんが大学生活を経て、自分の強みを見つけ、力強く夢に向かって前進していけることを心から願っています。

吉市 睦生 文学部人文学科 平成27年度卒業 岡山県高等学校(英語)合格

4年生になろうともする2月、書店でたまたま目にした「男は人どう付き合うべきか」(著:川北義則)を買って読んだことが、私が試験勉強に熱を入れるきっかけとなった。父親が昔かたぎな人間で、「男は泣くな」論を展開する家庭だというのもあり、ふと手に取った本だった。自分の中にある「いいわけ」「あきらめ」「逃げ腰」「ねたみ」、こういったものをその本によって知らされた。これをきっかけにさまざまな自己啓発本やビジネス書を読むようになり、そういった中で自分の教育観における「軸」のようなものも未熟ながら少しだけ出来上がっていったように思う。これは面接や小論文で大いに役に立った。

面接や小論文といえば、教職相談室は最高の場所だと感じる。こんなに手厚いサポートを受けられる場所は他の大学にはない。採用試験合格にあたり、一番の手助けをしていた

だいたいの相談室だと思う。

振り返ってみるとなぜこんなことをしたのか分からないが、教員採用試験の勉強のほとんどの時間を、試験とは直接関係のないビジネス書やリーダーシップ論など自分の人格や思考の幅を高めるために費やした。純粋に楽しかった。もし私がもう一度採用試験を受けることがあれば、やはり知識をただ詰め込んだり模範解答を暗記したりするのではなく、教育や人生一般に対する自分の思考を深める作業を徹底的に行いたい。それが自分の場合は読書を通じてだった。このことは100%役に立ったと断言できる。最近では読書もしかり、社会人の方々（特に教育関係以外の人たち）とお話することもものすごく勉強になると感じる。

また、サークルやプライベートを犠牲に勉強しつつ、一方でストレス発散を怠らないことが大変難しかった。自分はテニスをしているため、つらくなったときは夜中であれ「壁打ち」をしにいった。それでもしんどいものはしんどかった。

最後に、ものすごく偉そうな書きぶりになりましたが、以上が本当に伝えたいことです。私自身、4年生になる直前まではテニスとバイトと「彼女が欲しいなあ。」くらいのことしか考えていませんでした。だから、何も気負うことなく大事な期間を過ごして合格してほしいと思っています。この1年間は私の今までの人生で最高の1年であったように、皆さんにとっても最高の1年となりますように。

三阪 卓也 理学部数学科 平成27年度卒業 大阪府高等学校（数学）合格

私が実際に教員採用試験を受けようと思ったのは、大学3年の時です。それまでは教員免許はとれるならとっておこう、その程度に考えていました。そのため卒業後の進路については大学院に進学、公務員になるなど様々な選択肢を考え、悩んでいました。なぜ、教員の道に進もうと決めたのかというと、中学校や高等学校で数学を学ぶ必要性に気付き、それを早く知っておけばよかったと後悔し、高校生に伝えてあげたいと感じたからです。実際に、4年生で教育実習に行かせていただき、母校で授業を行い、教師という職業を体験してみると、楽しく、やりがいを感じることで自分に適した職業であると感じました。1年生の頃はやる気と好奇心から、2年生の頃はここまでやったなら最後までやろうという強い思いでなんとか続けていた教職の勉強も、今となっては1年生の頃から続けていてよかったと感じています。

教職課程に関する情報は自分で探しに行かないと見つかりません。また、専門の勉強もしなくてはならないので、大変になるとは思います。そのため、私は掲示板をこまめにチェックし、教職課程をともに受ける仲間を見つけ、情報を共有し助け合いながら教職の授業を受けてきました。そして、新たな自分を見つけることができました。また、教育学部の教職相談室や教育実習基礎研究担当の先生方だけでなく、学部の先生方や理学部の教務の方々もサポートしてくれました。困ったときは相談してみると良いアドバイスがもらえらると思います。

私は公務員や進学、就職など進路が二転三転しました。そのため、できることは大学生のうちにもいろいろと挑戦することが大事だなと思います。後輩の皆さんへ、教職だけでな

く様々な授業を受けてみてください。他学部でも受けることのできるおもしろい授業がたくさんあります。たくさんの知識を身につけ、実りある大学生活を送ってください。

井上 結 農学部総合農業科学科 平成 27 年度卒業 広島県高等学校（農業）合格

私が教職を目指したきっかけは、両親の勧めです。最初は、同じ学部の人よりも別個に教育学部の講義を受講することが寂しく、何度も教職を目指すことをあきらめかけました。しかし、教職に関する知識が身につくにつれ、自分が教師の立場ならこうしたいと思うことが増えていきました。両親に実際の教育現場についての話や、教師のやりがいや楽しさを聞く機会も増えていくにつれて、教員として働く両親の姿にあこがれを抱くようになったことで、自分も本気で教職を志そうと決めました。

私は普通科高校の出身ですが、農業高校に興味を持っていた時期があり、そのことから農業科の教員になりたいと思うようになりました。教育実習では母校ではなく、岡山県内の農業高校に実習の受け入れをしていただきました。そこで出会った生徒や先生方にも、教師のやりがいや楽しさを教わりました。

農業高校の教員になるためには、農業という幅広い分野に関する知識を身につけなければなりません。植物、動物、農業機械、バイオテクノロジー…。自分の興味の有無にかかわらず必修授業を受講することは、モチベーションを維持するうえで非常に大変でした。私は大学生活で部活動にも取り組んでおりましたが、その同期生に教育学部が多く、本気で教師になりたいと思う友人がいてくれたことが、自分の教職に対するモチベーションの維持につながったと思います。

教員を目指している皆さん、採用試験に向けて不安なことがたくさんあると思います。しかし、どのような教員になりたいか、教員になって何がしたいかという気持ちをブラさず持ち続け、筆記試験や面接試験に臨んでください。採用試験期間中につらくなった時でも、その気持ちを思い出すことで前を向くことができます。農業高校の先生から『大切なことは Vitality Speciality Originality Personality である』と教えていただきました。教員としてだけでなく、一般企業の就職活動にも通ずる言葉だと思います。この VSOP を胸に、自分らしさを強く持って、大学生活でたくさんのことを吸収し、納得する進路決定ができるよう願っています。

第 V 部

教職実践ポートフォリオ（中学校・高等学校教諭用）

／履修カルテ

1. 教職実践ポートフォリオ／履修カルテについて

教職実践ポートフォリオとは

教員免許状の取得を目指す皆さん。そして教師として子どもたちの幸せのために働こうと考えている皆さん。

「ポートフォリオ (Portfolio)」は、もともと書類や作品を入れるファイルという意味ですが、教育分野では「自分のこれまでの学びの成果をファイルしたもの」という意味で使われています。

75 頁から始まる「教職実践ポートフォリオ」は、皆さんが1年次から4年次の全学教職課程において、自らの実践的指導力を豊かに育んでいく過程を記録するものです。授業や実習において身につけた力を、本学が大切にしている「教育実践力を構成する4つの力」、すなわち「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」で評価していきます。

「教職実践ポートフォリオ」は、皆さんが4年次後半（3・4学期）に履修する必修科目「教職実践演習」で、自らの履修の記録としても活用します。

「教職実践ポートフォリオ」が、専門職としての教員を目指す皆さんの、確かな実践的指導力を育成する「羅針盤」となり、教職への夢と希望をふくらませる豊かな学びの航海日誌となることを願っています。

履修カルテとは

教員免許状の取得を目指す皆さんが「教職実践ポートフォリオ」とともに、自らの教職課程科目の履修の記録としてつけていくものです。4年次後半（3・4学期）に履修する「教職実践演習」を履修する際に提出していただくこととなりますので、忘れずに記録していきましょう。

ただ単に記録をしていくのではなく、修得した授業で自分が何を学んだのか振り返り、今後どのような学習が必要なのかを自分で考えるための手がかり等として活用してください。

教職実践ポートフォリオ

＜教師の教育実践力を構成する4つの力＞

学習指導力

- ① 学習状況の把握力
- ② 授業設計力
- ③ 授業実践力
- ④ 授業の分析・省察力

生徒指導力

- ① 子どもの発達的特徴を理解する力
- ② 子どもの生活の実態を理解する力
- ③ コミュニケーション力
- ④ 学校・学級での生活を指導する力

コーディネート力

- ① 実習生同士で協働する力
- ② 実習校の教職員とつながる力
- ③ 協力者・連携機関を理解する力
- ④ 保護者・地域とつながる力

マネジメント力

- ① セルフマネジメント力
- ② 専門職マネジメント力
- ③ 学級・学年マネジメント力
- ④ 学校マネジメントを理解する力

1年次「全学教職オリエンテーション」後の自己評価
【学校教育への関心】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①生徒の学習状況について関心があるか。	
②授業の内容や学習指導の在り方に関心があるか。	
③生徒の反応を見ながら授業をすることに関心があるか。	
④授業を振り返り、改善していくことの必要性を理解しているか。	
生徒指導力	
①思春期の心と体、言動などの特徴について、自らを振り返り説明できるか。	
②生徒の学校内外の生活に関心があるか。	
③生徒とコミュニケーションをとるための工夫に関心があるか。	
④生徒の発達段階や生活背景を理解して、生徒指導が行われていることに関心があるか。	
コーディネート力	
①教職を目指す学生同士が協力することの必要性について説明できるか。	
②実習校の教職員に指導してもらえることを感謝しているか。	
③学校を支援する協力者や専門機関について関心があるか。	
④学校と保護者や地域の連携・協力が大切であると思っているか。	
マネジメント力	
①自らが教職を志望する気持ちを説明できるか。	
②専門職としての教員となるために、自ら主体的に学びたいと思っているか。	
③中・高校生の時の学級の様子や担任の関わりについて説明できるか。	
④学校教育の意義について関心があるか。	
【母校訪問又は学校支援ボランティアで何を学ぶか等】	

1年次「母校訪問（学校支援ボランティア）」後の自己評価
【教職志望の確認】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①生徒の学習状況について、観察してきたことを説明できるか。	
②使用されていた教科書について、説明できるか。	
③観察した授業を記録し、授業の流れを説明できるか。	
④教師の視点に立って、授業を観察し、板書や話し方の工夫について説明できるか。	
生徒指導力	
①生徒の話し方や活動、人間関係の特徴を説明できるか。	
②生徒の一日の学校生活の実際について、説明できるか。	
③生徒と会話することができたか。	
④訪問校の生徒集団の様子について説明できるか。	
コーディネート力	
①教職を目指す学生同士で訪問校で学んだことについて話し合うことができたか。	
②訪問校の教職員の職名を挙げることができるか。	
③学校を支援する協力者や専門機関等について、話を聞くことができたか。	
④他の来訪者にあいさつできたか。	
マネジメント力	
①教職の魅力、目指す教師像について語るができるか。	
②知り得た生徒、学級、学校園等の情報について、守秘義務を果たすことの必要性を理解しているか。	
③学級経営について、教員から話を聞くことができたか。	
④訪問した学校の学校教育目標を説明できるか。	
【2年次教職論に向けての課題等】	

2年次「教職論」後の自己評価
【学校教育の理解】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①生徒の学習に取り組む様子について、観察する視点を挙げることができるか。	
②学習指導要領を読み、教科の目標や内容を理解しているか。	
③授業を実施するにあたって、板書、話し方、表情等、配慮すべき事項を説明することができるか。	
④授業実践を分析する際の視点について、説明することができるか。	
生徒指導力	
①生徒の発達の特徴を理解する視点を説明することができるか。	
②現代社会における生徒の生活実態の特徴について説明することができるか。	
③生徒とのコミュニケーションづくりに意欲を持ち、公平で受容的な態度でかわろうと考えているか。	
④生徒の問題行動にはどのようなものがあるのか、例を挙げて説明することができるか。	
コーディネート力	
①実習生同士でポートフォリオについて話し合うことができたか。	
②教職員の職名と主な校務分掌について説明できるか。	
③学校の協力者や連携機関を挙げるができるか。	
④学校と保護者や地域の連携・協力の必要性について説明できるか。	
マネジメント力	
①教員としてふさわしい身だしなみや言動について理解し、説明できるか。	
②教職として、生徒の健康や安全に配慮し、人権を守ることの重要性について説明できるか。	
③学級目標や学年目標の意義を理解しているか。	
④学校教育目標を実現するための学校経営組織(図)について説明できるか。	
【3年次教育実習基礎研究に向けての課題等】	

3年次「教育実習基礎研究」後の自己評価
【実習準備性の確認】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①生徒の持っている知識、技能、関心、意欲や学習状況について、校種、学年、教科による違いを説明できるか。	
②学習指導要領を理解し、学習指導案を作成することができるか。	
③板書、話し方、表情等を工夫して、模擬授業を実施することができたか。	
④授業実践例を観察して、授業の特徴や工夫をあげることができるか。	
生徒指導力	
①生徒の心身や社会性の発達的特徴について、理論的に説明することができるか。	
②教育実践にとって、生徒の学校・家庭・地域での生活実態を把握することの重要性を理解できたか。	
③生徒間のコミュニケーションをつくり出すための方法について説明することができるか。	
④生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義と内容について、説明できるか。	
コーディネート力	
①実習生同士で、それぞれの目標を確認し、お互いの目標達成のために励まし合うことができたか。	
②実習にあたり、実習校の教職員と打ち合わせる内容を準備できているか。	
③学校と保護者や地域、専門機関等との連携の必要性について説明できるか。	
④学校と保護者や地域との連携・協力について、具体的な例を挙げて説明できるか。	
マネジメント力	
①教員としての自覚と自己目標を持ち、自信を持って実習に参加する準備ができたか。	
②学校の説明責任や法令遵守の内容を理解し、その重要性について説明することができるか。	
③学級経営の具体的な内容や方法について、説明できるか。	
④校長や教頭など管理職の仕事について、理解しているか。	
【母校実習に向けての課題等】	
【指導教員のコメント】	

4年次前半（1・2学期）「教育実習」後の自己評価
【教育実践力の評価と自己課題の確認】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①授業実践を通して、生徒のレディネスや学習状況を把握することができたか。	
②生徒の実態に応じて、学習指導案を作成することができたか。	
③自らが設計した学習指導案にそいながら、生徒の反応をふまえた授業実践をすることができたか。	
④自分が実施した授業を省察するために、参観者の意見や生徒の記録など必要な資料や情報を収集できたか。	
生徒指導力	
①実習中に担当した生徒の発達的特徴について、発達理論をふまえて具体的に説明できるか。	
②実習中に担当した生徒の生活実態の共通性と多様性を具体的に説明できるか。	
③教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを育むために工夫したことについて、説明できるか。	
④個々の生徒理解に基づいて、行われていた指導について説明できるか。	
コーディネート力	
①実習生同士で課題を共有し、協働して実習することができたか。	
②教職員の指導やアドバイスに従い、周囲の理解や協力を得ながら実習を行うことができたか。	
③実習校における協力者や専門機関等との連携の在り方やその取組について、具体を挙げて説明できるか。	
④学校と保護者や地域との連携・協力について理解を深め、来校者に進んであいさつしたりかかわろうとしたりすることができたか。	
マネジメント力	
①実習期間中、高い意欲と課題意識を持ち続けることができたか。	
②計画－実践－分析・評価－改善というプロセスを意識して実習できたか。	
③学級目標や学級経営案について理解を深め、学級経営に参加することができたか。	
④実習校の学校教育目標に基づく年間指導計画について、説明できるか。	
【教職実践演習に向けての課題等】	

4年次後半（3・4学期）「教職実践演習」後の自己評価
【教育実践力の到達点の確認】

【評価基準】 A：充分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	自己評価
学習指導力	
①学習の状況を評価するための場面や方法について、説明することができるか。	
②学習指導要領に沿って、教科書をいかした学習指導案を作成することができるか。	
③自他の授業実践の反省に基づいて、板書、表情、話し方等を工夫する力が身についているか。	
④自他の授業実践について、分析、省察し、具体的な改善点を提示することができるか。	
生徒指導力	
①生徒の現代的な発達課題について、説明することができるか。	
②生徒の家庭・地域での生活と学校生活とのかかわりを把握し、個々の生徒理解につなげることの重要性を理解できたか。	
③生徒理解に基づく、共感的なコミュニケーションを通じた、教育実践を行う力が身についているか。	
④生徒指導を行ううえで、学校や学年の教職員が協力して取り組む姿勢が身についているか。	
コーディネート力	
①教職を目指す学生同士で学びを共有したり、適切な助言や支援をしたりすることができるか。	
②学校組織の一員として、教職員と連携・協力するために必要な力が身についているか。	
③学校における協力者や専門機関等との連携・協力をコーディネートするために必要な視点を説明できるか。	
④保護者や地域と連携・協力して行う活動の重要性を理解し、積極的にかかわる姿勢が身についているか。	
マネジメント力	
①自分自身をコントロールし、意欲と課題意識を持って、実践に取り組むことができるか。	
②使命と責任を持つ専門職として、主体的に学び続ける姿勢が身についているか。	
③自らの目指す学級・学年経営について説明できるか。	
④学校内の組織だけでなく、保護者や地域、専門機関等との連携組織の働きや活動内容について説明することができるか。	
【教職実践演習を終えての自己の課題等】	
【指導教員のコメント】	

岡山大学全学教職課程履修カルテ

学部・学科等			
学生番号		氏名	
取得を希望する免許状			
校種・教科			

◆教職科目の履修状況

教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	授業科目名	取得単位	取得年度	成績評価	必要単位数
教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ・ 進路選択に資する各種の機会の提供等 					2
教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・ 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 					6
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項 					
教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程の意義及び編成の方法 					中学一種は12単位 高校一種は6単位
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科の指導法 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の指導法 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動の指導法 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 					
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法 ・ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 					4
教育実習						中学一種は5単位 高校一種は3単位
教職実践演習						2

◆文部科学省令で定める科目（教育教員免許法施行規則第66条の6）

文部科学省令の科目	授業科目名	取得単位	取得年度	成績評価
日本国憲法				
体育				
外国語コミュニケーション				
情報機器の操作に関する科目				

教職課程履修ハンドブック

平成 28 年 5 月

編集：岡山大学教師教育開発センター

〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中3-1-1

TEL：086-251-7728

印刷：昭和印刷株式会社

〒700-0942

岡山県岡山市南区豊成3-1-27

TEL：086-264-6110



岡山大学教師教育開発センター
Center for Teacher Education and Development, OKAYAMA UNIVERSITY

学部・学科

学生番号

氏 名